

# 2010年度 防災教育 チャレンジプラン ワークショップ

Disaster Management Education Challenge Plan Workshop

2010年度  
防災教育  
チャレンジプラン  
成果発表

2011年度  
防災教育  
チャレンジプラン  
決定・発表

特別枠テーマ  
地域の特色を活かした  
防災力の向上

日時: 2011年2月26日(土) 10:00 ~ 17:00  
会場: 有明の丘基幹的広域防災拠点施設 (東京・有明)  
参加費: 無料 (事前登録受付: 2011年2月22日(月)まで)

会場への入場は事前登録制となっておりますので、ご来場する際にはホームページ  
(<http://www.bosai-study.net/>)にて事前登録をお願い致します。

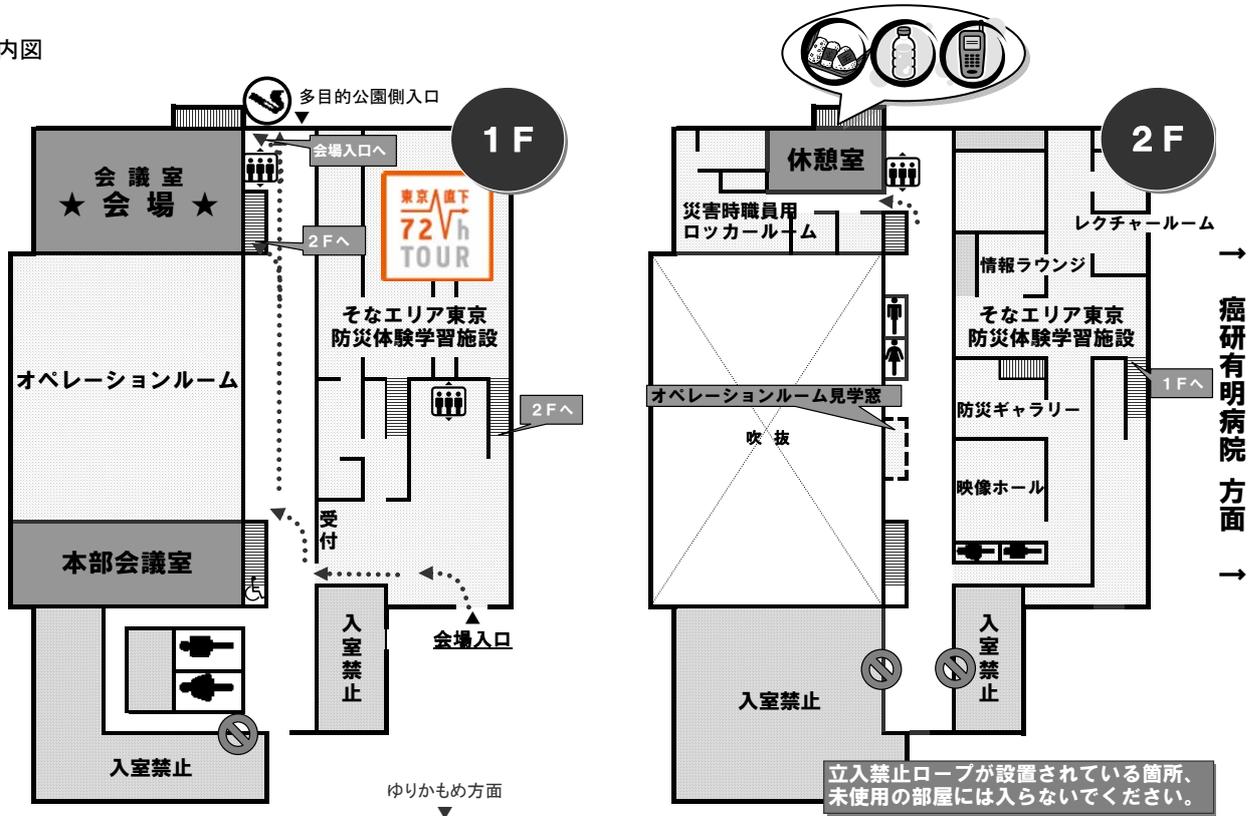
[www.bosai-study.net](http://www.bosai-study.net)

主催: 防災教育チャレンジプラン実行委員会・内閣府 (防災担当)

後援: 総務省消防庁・文部科学省・国土交通省・全国知事会・全国市長会・全国町村会・日本赤十字社・全国都道府県教育委員会連合会・日本PTA全国協議会

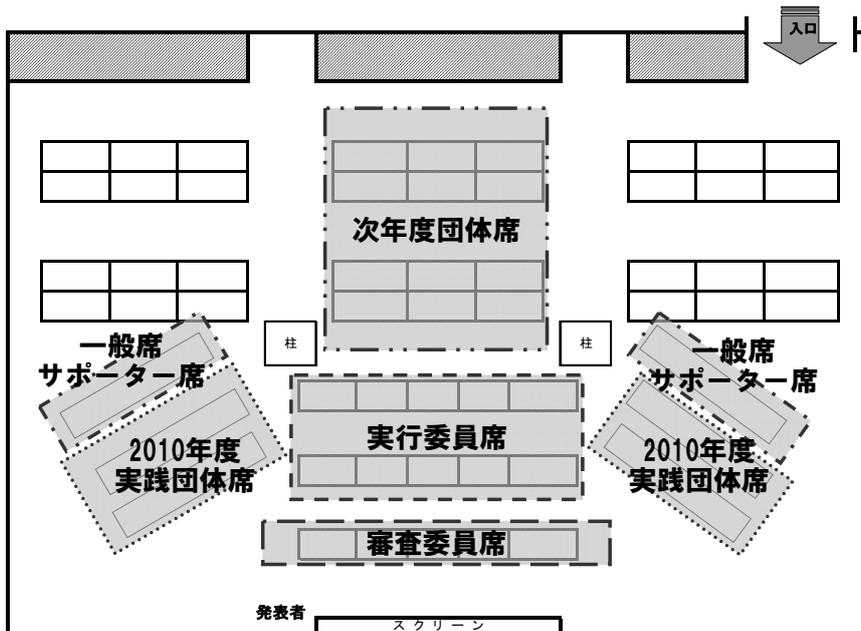
# 会場図

## ■館内図



- ※ 報告会会場は、飲食及び携帯電話の通話をご遠慮ください。飲食は2階休憩室をご利用ください。
- ※ 施設内の機器には、お手を触れないでください。
- ※ 未使用の部屋には立ち入らないでください。

## ■会場図(会議室内)



※ 報告会会場内の機器には、お手を触れないでください。使用できません。

## 防災教育チャレンジプランとは？

国内外で大規模な災害が起きている昨今、またいつ災害がやってくるかわかりません。いつやってくるかわからない災害に備え大切な命を守り、できるだけ被害を減らし、万が一被害があった時すぐに立ち直る力を一人一人が身につけるため、全国の地域や学校で防災教育を推進するためのプランです。

全国各地の防災教育への意欲をもつ団体・学校・個人等に対し、より充実した防災教育のプランを募集し、「防災教育チャレンジプラン」として選出した上で、その実践への支援を行います。

1年間の実践の後、その実践例や支援した取り組みの内容をワークショップを通じて広く公開・共有するとともに優れた実践の表彰を行うことで、全国の防災教育に取り組む団体・学校・個人やそのプランに光をあて、各地域で自律的に防災教育に取り組むことのできる環境づくりを目指します。

防災教育  
チャレンジプラン  
の実践

新しいプラン内容の開発  
新しい連携体制の構築  
新しい教材の開発

## 実行委員の紹介

委員長	林 春男	京都大学 防災研究所巨大災害研究センター センター長・教授
委員	市川 啓一	株式会社レスキューナウ 取締役会長
委員	井上 浩一	防災ネットワークプラン 代表
委員	鍵屋 一	板橋区役所 区民文化部 参事
委員	木村 玲欧	富士常葉大学 大学院環境防災研究科 准教授
委員	国崎 信江	危機管理アドバイザー 危機管理教育研究所 代表
委員	栗田 暢之	特定非営利活動法人レスキューストックヤード 代表理事
委員	澤野 次郎	災害救援ボランティア推進委員会 委員長
委員	篠田 貴司	東京都葛飾区立綾瀬中学校 教諭
委員	鈴木 克明	熊本大学大学院 社会文化科学研究科 教授システム学専攻 教授
委員	諏訪 清二	兵庫県立舞子高等学校 環境防災科 科長
委員	田村 拓	株式会社CSK ITソリューション社 執行役員
委員	中川 和之	時事通信 防災リスクマネジメントWeb 編集長
委員	永田 宏和	特定非営利活動法人プラス・アーツ 理事長
委員	平田 直	東京大学地震研究所 所長・教授
委員	福和 伸夫	名古屋大学大学院 環境学研究科 教授
委員	船木 伸江	神戸学院大学 学際教育機構 防災・社会貢献ユニット 専任講師
委員	松尾 知純	防災危機管理教育事業コンサルタント BOUSAI-GATE Partners 代表
委員	南島 正重	東京都立小石川高等学校 主幹教諭
委員	越智 繁雄	内閣府参事官(地震・火山・大規模水害対策担当)
委員	五島 政一	国立教育政策研究所 教育課程研究センター 基礎研究部 総括研究官
委員	仲程 倫由	内閣府政策統括官(防災担当)付企画官(災害予防担当)
委員	南山 力生	文部科学省 研究開発局 地震・防災研究課 防災科学技術推進室 室長
委員	横田 真二	総務省消防庁 国民保護・防災部 防災課 課長

(平成 23 年 2 月 26 日現在、所属役職別 50 音順、敬称略)

# プログラム

9:00 受付 ~	※受付場所: 1階エントランスホール
<b>10:00 開会</b>	
<b>10:00 開会挨拶</b>	
( 防災教育チャレンジプラン実行委員会委員長	林 春男 )
( 内閣府大臣官房審議官(防災担当)	長谷川 彰一 )
<b>10:10 施設紹介</b>	
( 内閣府 政策統括官(防災担当)付 企画官	西口 学 )
<b>10:20 2010年度 実践団体発表</b> 司会:( 防災教育チャレンジプラン実行委員 木村 玲欧 )	
10:20~ ( ① 滋賀県立彦根工業高等学校	) ※1 団体 10分
10:30~ ( ② 高津養護学校 たかつ地域ネットワーク推進会議	)
10:40~ ( ③ なでしこ防災ネット	)
10:50~ ( ④ 西大和6自治会連絡会	)
11:00~ ( ⑤ 「やさしい日本語」有志の会	)
11:10~ ( ⑥ 愛知県立半田商業高等学校	)
11:20~ ( ⑦ 佐用高校農業科学科防災プロジェクトチーム	)
11:30~ ( ⑧ 社会福祉法人温真会 中土幌児童ステーション	)
11:40~ ( ⑨ 中学生防災隊プロジェクトチーム	)
11:50~ ( ⑩ 特定非営利活動法人ディー・コレクティブ	)
<b>12:00 昼 休 憩 《60分》</b>	
<b>13:00 2010年度 実践団体発表</b> 司会:( 防災教育チャレンジプラン実行委員 栗田 暢之 )	
13:00~ ( ⑪ 愛知県立日進高等学校	) ※1 団体 10分
13:10~ ( ⑫ 岡山一宮高校防災チャレンジ	)
13:20~ ( ⑬ 釜石市立釜石東中学校	)
13:30~ ( ⑭ 千葉県立市川西高等学校	)
13:40~ ( ⑮ 千葉県立千葉西高等学校	)
13:50~ ( ⑯ 西の地防災さずな会	)
14:00~ ( ⑰ 宮城県丸森町立丸森東中学校	)
<b>14:10 2010年度 実践団体発表 総 括</b>	
( 防災教育チャレンジプラン実行委員	鍵屋 一 )
<b>14:30 休 憩 《10分》</b>	
《 審査委員会 開催 》	
<b>14:40 2011年度 実践団体発表</b> 司会:( 防災教育チャレンジプラン実行委員 松尾 知純 )	
14:40~ ( ① 高津養護学校 たかつ地域ネットワーク推進会議	) ※1 団体 6分
14:46~ ( ② 千葉県立東金特別支援学校	)
14:52~ ( ③ 釜石市立釜石東中学校	)
14:58~ ( ④ 高塚台2丁目自治会	)
15:04~ ( ⑤ 宮城県大河原町立金ヶ瀬中学校	)
15:10~ ( ⑥ 愛知県立半田商業高等学校	)
15:16~ ( ⑦ 糸魚川市立根知小学校	)
15:22~ ( ⑧ 南三陸町立歌津中学校	)
15:28~ ( ⑨ 千葉県立姉崎高等学校	)
15:34~ ( ⑩ 北海道滝川高等学校コンピュータ同好会	)
<b>15:40 休 憩 《10分》</b>	
15:50~ ( ⑪ 「やさしい日本語」有志の会	)
15:56~ ( ⑫ みえ防災コーディネーター・三泗ブロック	)
16:02~ ( ⑬ 新潟県立柏崎工業高等学校	)
16:08~ ( ⑭ 東京都立田無工業高等学校	)
16:14~ ( ⑮ 茅ヶ崎トラストチーム	)
16:20~ ( ⑯ 秋田県大館市立第二中学校	)
16:26~ ( ⑰ 八女市上陽防火委員会	)
<b>16:35 2011年度 実践団体発表 総 括</b>	
( 防災教育チャレンジプラン実行委員	中川 和之 )
<b>16:45 2010年度 防災教育チャレンジプランの表彰・講評</b>	
( 防災教育チャレンジプラン審査委員会委員長	近藤 信司 )
<b>17:00 開会</b>	
※17:00~17:15 次年度団体 説明会( 各2011年度実践団体より1名参加 )	
※18:00~20:00 交流会 ( 希望者のみ対象 )	
※別会場にて開催	



## 実践団体の紹介

### 2010年度防災教育チャレンジプラン

#### ① 滋賀県立彦根工業高等学校

／ 滋賀県彦根市《高等学校の部》

地域防災力の「質」を向上させるため、「災害弱者という観点から防災を学ぶ防災教育活動」と、これまで私たちが築きあげてきた「モノづくり防災教育活動」のよき効果を融合させた活動にチャレンジします。具体的には、高校生等と災害弱者(福祉施設入所高齢者)が、かまどベンチづくり等の一連の活動を共に行い、弱者理解などのより深い視野を育てるだけでなく、相互の防災知識の深まりと災害に対するたくましさ(心のケア)の強化を図ります。災害弱者(高齢者)が参画できる防災活動の一モデルプランとしての提案も目指します。

#### ② 高津養護学校たかつ地域ネットワーク推進会議

／ 神奈川県川崎市高津区《小学校の部～大学・一般の部》

障がいのある児童・生徒の防災意識の涵養<sup>かんよう</sup>と社会参加への機会を提供するとともに、学校と地域との協働による防災訓練とおし、地域防災のあり方を探る。また、地域の高齢者等要援護者と地域住民との交流の機会とし、障がいや高齢化への理解推進を図り、地域コミュニティ活性化の一助としたい。

#### ③ なでしこ防災ネット

／ 神奈川県秦野市《大学・一般の部》

炊事、洗濯、入浴、水洗トイレの水など、飲料水の確保と同様に、生活用水を確保すること、その手段を確立しておくことは重要なことであると考え「災害時の水の確保」について調査する。秦野市は豊富で良質な湧水が多い。そこで、地の利を活かし、災害時の水の確保として、湧水箇所、水場を現況把握した防災マップを作成する。また、点訳し、点字マップも作成する。関係者や施設、学校などに配付し非常時に活用する。

#### ④ 西大和6自治会連絡会

／ 奈良県北葛城郡上牧町《小学校低学年の部 小学校高学年の部 大学・一般の部》

災害時要援護者対策として、疑似避難訓練を実施することにより、地域の要援護者を把握し、自治会として何ができるか、何をすべきか検証する。そのため、町役場、社会福祉協議会、民生児童委員、老人会、消防署等と連携をとり、横のつながりを重視したネットワークを形成する。子どもサバイバルキャンプは、楽しく、遊びを通してオーバーナイトの疑似避難訓練や実技体験をする。同時に、大人も炊出し等の訓練を通じて地域のコミュニケーションを図る。

#### ⑤ 「やさしい日本語」有志の会

／ 京都府京都市《大学・一般の部》

多くの外国人がボランティア日本語教室で日本語を学んでいます。そこで使える「防災をテーマに教材開発」と、防災教育実践の啓発活動を行います。

外国人の観光客や住民も多い京都で、災害時だけでなく、日常のコミュニケーションにも役立つ「災害時に外国人を助けるためのマニュアル」や「やさしい日本語」を、大学生、国際交流団体、企業や教育・行政関係者等に広く知ってもらうためのワークショップを開催します。

#### ⑥ 愛知県立半田商業高等学校

／ 愛知県半田市《高等学校の部》

本校生徒が三河地震や伊勢湾台風等の被災者からの聴き取り調査を通じて製作した防災教材「防災を語り継ぐ電子紙芝居」を活用し、近隣の小中学校に「出前授業」を実施する。

このプランは、防災に関する知識の習得だけでなく、現在の若者に必要だと思われるコミュニケーション能力の育成、学校教育で重要視されている道徳心の育成が可能となる。

また、マスコミを通じ、全国の高校生に対する防災教育の啓発活動を行う。

## 2010 年度防災教育チャレンジプラン

### ⑦ 佐用高校農業科学科 防災プロジェクトチーム / 兵庫県佐用町《高等学校の部》

昨年8月9日に甚大な豪雨被害を受けた我が町をなんとか勇気づけたい。また、災害の教訓を風化させないように防災意識を高められる取り組みをしたいと考え、取り組んでいます。

農業を題材として学んでいる学科だからこそできる防災活動を提案し、行政、地域住民の皆さまと地域に根ざした取り組みを実践していきます。

### ⑧ 社会福祉法人温真会 中士幌児童ステーション / 北海道士幌市《保育園・幼稚園の部 小学校低学年の部 小学校高学年の部》

地域の様々な人々が交差する中士幌児童ステーションを核に、現在、各事業所、各種団体ごとにバラバラに実施されている防災教育を、地域の実状に合わせ、年齢や現状を加味した統合防災プログラムを開発する。特に、加速度的に進行している少子高齢化社会に即応した、地域防災総合プログラムを行政、地域住民と協働開発し地域あげでの啓発と防災に努める。

### ⑨ 中学生防災隊プロジェクトチーム / 愛知県安城市《中学校の部》

- 【目的】 1.中学生が『地域の歴史災害』を理解し、防災マインドを養う。  
2.中学生防災隊を結成する。  
3.中学生防災隊が活躍する為の「地域防災訓練プログラム」を作る。  
4.中学生防災隊が学ぶ為の「地域防災学習テキスト」を作る。

- 【展開】 1.地域自主防災組織の地域防災マニュアルに中学生防災隊を位置付ける。  
2.プログラム・テキストは他地域へも提供し、中学生防災隊普及を図る。

### ⑩ 特定非営利活動法人ディー・コレクティブ / 山形県天童市《小学校高学年の部》

防災確実視の宮城県沖地震。子ども達当事者にとっても、「災害時には自分たちは守られる存在だけではなく、助け合える・支え合える力を持っているという潜在性に気付き、自信を持つ機会が必要」と考えました。この事業を通し、大人達も関わりながら、「自助・災害への備え」「共助のあり方」「要援護者対策」等について気付き、実践へつなげる場作りとしても位置づけていきます。両県で開催することで、更なる意識向上に寄与します。

### ⑪ 愛知県立日進高等学校 / 愛知県日進市《高等学校の部》

地球温暖化の影響で、大型台風の襲来、あるいはこれまでにない都市型集中豪雨が各地で発生している。そのため、洪水に視点を置いた防災教育に取り組むこととした。本校は、しばしば氾濫する天白川源流域に位置する。そこで、源流域ならではの河川や水田でのフィールドワーク、洪水ハザードジオラマ、洪水紙芝居の作成を高校生が中心となり、地域住民や保育園、小学校などの異校種、日進市などと連携して実践する。

### ⑫ 岡山一宮高校防災チャレンジ / 岡山県岡山市北区《高等学校の部》

「集中豪雨」「竜巻被害」「火山災害」「避難所」「緊急地震速報」などをテーマに、自然災害や防災に関する課題研究を行います。研究成果については、高校生による学会発表、ポスターの校内行事での発表、県内高校教育研究会での報告、ホームページからの発信を行います。探求的な学習である課題研究を行うことにより、防災に関する知識としての理解だけではなく、科学的・論理的に課題を見だし解決していく能力を高めることができます。また、新しい高等学校学習指導要領では、「地理 A」に防災に関することが盛り込まれており、先行した実践事例を作成し、提案・普及します。

### ⑬ 釜石市立釜石東中学校 / 岩手県釜石市《中学校の部》

自分の命を自分で守った上で、助けられる人から「助ける人」になるために、津波や災害について学習し、防災ボランティアの活動を行っています。具体的には、「安否札」(災害時避難したことを知らせる札)を地域の方々に1,000軒配布したいと考えています。また、防災の学習や活動の励みにするために、防災の授業や活動に参加することで、本校独自の「EAST-レスキュー」5級から1級の級を設定します。



① 滋賀県立 彦根工業高等学校 都市工学科

プラン名

高齢者と共に活動 ～モノづくり防災活動～

プランの対象

児童、生徒、地域住民、  
高齢者、行政等

所在地

滋賀県彦根市

★☆☆  
一プランの目的・ここがポイント！

2009年度実施プラン「かまどベンチづくり」の発展・追究プラン。  
地域防災の「質」の向上として、災害時要援護者対策に重点を置き、要援護者対策の出発点である「接触と交流」を、かまどベンチづくり等の一連の交流活動により実施する。生徒らが高齢者と共に活動することにより、経験や知恵を学び、高齢者（障害者）理解など防災に対して幅広く深い視野を育てる。  
また高齢者自身の力を平時の防災活動で発揮していただき、防災意識の高揚を図り、被災後の心のケア（たくましさ）につなげる。さらに「手作りかまどベンチ」について、小学校や地域での継続活動をすすめると共に、学校や行政等との連携を探究し、防災教育や防災事業の一施策を目指す。

一プランの概要

- ・高齢者との交流等、活動の事前学習（防災知識、高齢者生活支援、かまど研究等）を実施する。
- ・災害時に役立つ「かまどベンチ」を、高齢者（高齢者総合福祉施設入所者）と協働で製作する。
- ・かまどベンチづくりの継続普及として、市内の小学生児童や地域の方などと交流製作を実施。
- ・継続普及のため、展示、発表等の紹介活動、手引き改訂、活動他団体へのサポートを実施する。
- ・行政や他団体との連携方策の探究活動（意見交換会、活動紹介等）を進める。

一期待される効果・ここがおすすめ！

- ・計画～製作～活用まで、数回の交流活動プロセスと積み重ねが、自然に防災意識を高めます。さらに防災減災に欠かせない、「人のつながり」をつくり、輪を拡げ、強くします。一石二鳥の活動ではなく、「一物多様」の効果的な活動です。みなさんの防災活動への組み入れをぜひおすすめします！

一成果として得たこと

- ・高齢者との活動では、高齢者の防災知識や知恵を継承することに加え、人のあたたかさや勤勉さ、福祉といった広がり、世代間の気づきや学びがとても多く、充実した教育活動となった。
- ・かまどベンチの製作、活用の取り組みは、どの地域でも活動でき、主体や連携協働パートナーの形態は多様に可能。対象も子どもからお年寄りまで幅広い年齢層が参加できる防災活動となった。
- ・特に、災害時には要援護者とされる「高齢者」や「退職シニア層」が参加でき、その潜在能力を十分活かす、子どもたちが高齢者の経験や知恵を学ぶ防災活動の一モデルプランである。
- ・ものづくり体験・炊き出し訓練を通して、災害に対する想像力や減災に対する創造力を豊かにし、災害に対してもたくましく生きる力を身につけ、防災の担い手が広がっていく効果を持つ。
- ・活動紹介やサポートの結果、滋賀県内のみならず、全国各地で活動が普及した。滋賀県では「地域減災協働コミュニティ 滋賀モデル推進事業」として行政施策として展開されることとなった。
- ・防災に役立つものづくりを通して、「物」（かまどベンチ）、「食べ物」（炊き出し）、「者」（生徒児童の育成、高齢者のケア、連携協働体制）をつくりあげた。

一全体の反省・感想・課題

本年度は、猛暑の中の製作活動、大雪の中の炊き出しという条件も重なった。いずれも屋外での過酷な自然条件であったが、生徒や参加者はそれに負けないたくましさも見られた。おそらく、万が一の災害時にも助け合うことができていると思っている。  
かまどベンチを製作するという一つの取り組みではあるが、副次的な効果を発揮し、減災の担い手を拡げ、地域防災力の向上や減災のしくみづくりに寄与できると確信している。



一今後の継続予定

今後も活動を継続するとともに、出前講座の展開や新たなモノ（防災設備）づくりに取り組む。



## ② 高津養護学校 たかつ地域ネットワーク推進会議

### プラン名

たかつ 地域との協働による  
障がい者・高齢者等要援護者支援のための防災シミュレーション訓練

### プランの対象

障がい児者、高齢者、  
地域住民、ボランティア

### 所在地

神奈川県川崎市高津区

### ープランの目的・ここがポイント！

障がい児者や高齢者等災害時要援護者と地域住民（町会・自治会）協働のぼうさいシミュレーション「避難所設営訓練」。訓練を通し障がいのある児童生徒に防災意識を育てるとともに地域住民との協働により社会参加への機会を提供する。また、学校と地域との協働による訓練をとおして、障がい者要援護者に配慮した避難所設営のあり方を探る。さらに、要援護者と地域住民との交流の機会とし、障がいの理解推進を図り地域コミュニティ活性化の一助とする。

### ープランの概要

- ・障がいのある方の保護者や支援者向け学習会の開催（4回）や夜間避難所設営訓練の開催
- ・防災ボランティア養成講座（3回）とぼうさいシミュレーション（避難所設営訓練）の開催
- ・保護者・支援者のための「地震防災ガイド」や地域向けぼうさいカレンダーの発行
- ・地域向け防災対策事業実践発表会開催

### ー期待される効果・ここがおすすめ！

- 地域住民と障がい児者など要援護者協働による訓練であること
- 具体的な場所（学校体育館や教室）を使用した避難所設営訓練であること
- 地域町会や自治会と学校が連携した訓練であること
- 災害時の障がい者等要援護者支援を目途とした実際的な訓練であること

### ー成果として得たこと

- ・台風影響下の荒天の中、多くの参加者（120名）があった。  
（児童・生徒と保護者35名、地域の方30名、行政や関係機関10名、教職員20名、ボランティア25名）
- ・地域の障がいのある方を支援する民生委員等に多く参加していただいた。（11名）
- ・要援護者支援を目途とする防災訓練が近隣の他地域でも開催されるようになってきた。  
（川崎市高津区、横浜市都筑区等）
- ・地域行政の全面的な協力が得られた。（川崎市高津区協働事業）
- ・要援護者支援の技術として、特別支援学校の教育力が実践的に生かされる機会となった。  
（避難所開設後の聞き取り調査や足湯の工夫など）
- ・支援者向けの「地震防災ガイド」を発行することができた。
- ・訓練の継続が地域から期待されるようになった。

### ー全体の反省・感想・課題

- ・障がいのある子らも訓練に参加しやすいような工夫の必要がある。
- ・障がい者施設等の職員に興味関心を深めてもらえるような広報活動が必要である。
- ・特別支援学校の支援技術が生かせるような訓練をおこなっていく必要がある。

### ー今後の継続予定

- ・地域の期待感を強く感じた。今後も実施内容を精査しながら、参加しやすい訓練を目指し、地域と協働・協力しながら続けていきたい。



**③ なでしこ防災ネット**

<b>プラン名</b>	災害時の水の確保「生活と水」 秦野盆地湧水群非常時活用マップ作成
<b>プランの対象</b>	親子、高齢者、障害者、中学生他
<b>所在地</b>	神奈川県秦野市

**ープランの目的・ここがポイント!**



炊事、洗濯、入浴、水洗トイレの水など、飲料水の確保と同様に、生活用水を確保すること、その手段を確立しておくことは重要なことであると考え、湧水・井戸を現況把握した防災マップを連携12団体、障害者、中・高校生らと作成し、地域防災に役立てる。  
 また、点訳し、点字マップも作成する。視覚障害者や施設、学校などに配付し、防災意識の啓発や家庭での備えなど家族の防災力の向上から災害に強い社会づくりに結びつける。  
 作成したマップを使っての出前講座や「災害時協力井戸湧水の家」の看板設置運動、保全活動等を行うところまで活動を展開する。  
 秦野市は豊富で良質な湧水が多い。地の利を活かしたプラン。

**ープランの概要**

- ・湧水箇所、水場を現況把握した防災マップを作成する。点訳し、点字マップも作成する。
- ・湧水・井戸水調査会の設置  
 秦野市立西中学校、地域住民、連携12団体、行政などから調査会を作り、湧水、井戸水、水場探し調査のリーダーとしてマップ作成活動を展開する。
- ・調査資料をもとに、生活用水を確保すること、その手段を確立しておくことの重要性や水資源環境の保護や維持する意識への学習会や講演会（手話付）、フィールドワーク、ワークショップなどを実施する。

**ー期待される効果・ここがおすすめ!**

- ・「もしもの時の災害時協力井戸・湧水マップ」を地域に提供することにより、防災メッセージが発信できる。
- ・マップ作成に取り組むことによって、地域との連携が更に深まり、地域とともに非常時の生活用水対策を構築して災害に強い街づくりが期待できる。
- ・防災教育効果と共に、水資源の重要性や地域の水環境を理解させることは、環境を保護する意識醸成のためにも有効な手段である。

**ー成果として得たこと**

- ・「もしもの時の災害時協力井戸・湧水マップ」ができた。  
 1/15の防災講演会時に参加者の声を防災マップに反映しようと公開したところ、登録件数が少ない幾つかの自治会が「水」対策を真剣に検討するようになり、予想以上の展開となった。  
 参加者から新たに災害時協力井戸に登録申請が3件あった。
- ・中学生がボランティアとして水に対する意識調査、井戸・湧水現地訪問調査に80名参加してくれた。回を重ねるうちに受け身ではなく、積極的に考え、地域へ自主的に働きかけるように成長した。地域への理解も深まり、防災教育のみならず、環境教育にもつながった。
- ・地域や行政、専門家との連携は、一度繋がりができるとその繋がりがさらに広がっていくことがわかった。
- ・災害ばかりでなく、恵みを学ぶことで、防災への取り組みが変わることがわかった。

**ー全体の反省・感想・課題**

地震等災害発生時には、水道施設の代替として地下水、湧水、井戸水の活用は極めて有効であるが、個人情報保護や非協力者への説得など多くの困難があった。

**ー今後の継続予定**

- ・今後も活動を継続するとともに、災害時協力井戸・湧水の場所がわかるように「災害時協力井戸湧水の家」の看板設置運動や保全活動を継続する。  
 防災意識の普及啓発活動も推進する。





## ④ 西大和6自治会連絡会

### プラン名

災害時要援護者避難訓練 & 子どもサバイバルキャンプ

### プランの対象

全ての人々、  
小学生（低・高学年）

### 所在地

奈良県上牧町

### ープランの目的・ここがポイント！

- ・災害時要援護者安否確認台帳を作成し、要援護者を手上げ・同意方式で募集する。
- ・災害時支援者（助ける人）台帳を作成し、支援者を募集する。
- ・災害時要援護者避難訓練を、大人の部も子どもの部も、同じメニューで実施する。
- ・子どもサバイバルキャンプを実施する。

### ープランの概要

- ・桜ヶ丘2丁目自治会の会員約400戸を対象に、災害時に援護して欲しい方を、自治会長とブロック委員が戸別訪問し、目的など説明して、合意される方は後で様式を自治会長宛に郵送する。そして台帳を作成する。
- ・災害時支援者（助ける人）についても、アンケート調査を行い、募集し、台帳を作成する。
- ・電話が通じない想定で、無線機を駆使して、情報班が本部と連絡を取り、救援班の出勤を依頼し、救出に向かう。本部では救護班が模擬救護をおこなう。子ども班も大人と同じメニューを。
- ・別室において、訓練と同時に避難所運営管理方法をHUG（避難所運営ゲーム）で勉強する。
- ・子どもサバイバルキャンプは、大地震が発生したと想定して、小学生を対象に町指定の一時避難所で1泊の避難所体験をする。また、楽しくゲームや訓練を体得する。大人は炊き出しの訓練を。

### ー期待される効果・ここがおすすめ！

- ・防災はもとより地域愛の意識の高揚。実際に資機材を使用した体験と実感。将来の担い手の育成。

### ー成果として得たこと

- ・国のプロジェクトに参加させていただいて、必然的に県や町の支援が得られ、又関係諸機関の協力も得られて、短期間であったが目的が果たせ、地域は地域が守る意識が高揚したこと。
- ・全国の先進的な団体や指導受けの先生方と懇話になり、ご苦労話を参考にさせていただき、また至らぬ点をご指導をいただいたことで、一層ブラッシュアップできた。すなわち初期の狙いよりもはるかに向上したこと。そしてネットワークが広がったこと。
- ・災害時要援護者対策（避難訓練）という大変困難な課題を短期間で、なんとか実施した結果、住民の自主防災に対する自覚が強まった。当初は要援護者のみを考えていたが、戸別訪問をしているうちに支援者（助ける人）も必要では？というご意見が多々あり、急遽そのアンケート調査をおこなった。結果、住民約1,200人のうち70名の要援護者と230名の支援者が登録されたこと。

### ー全体の反省・感想・課題

- ・避難訓練には、連絡にトランシーバ（親機1、子機5）で連絡を取り合った。親機には1つの相手しか話せなく、子機が待たざるを得ないことが問題となった。トランシーバの利用方法を工夫する必要がある。

### ー今後の継続予定

- ・安否確認台帳と支援者台帳を毎年確認し、更新する。
- ・避難訓練と子どもサバイバルキャンプを継続する。



## ⑤ 「やさしい日本語」有志の会

プラン名

「やさしい日本語」から防災教育へ

プランの対象

日本語支援ボランティア  
及び教師、地域住民

所在地

京都府京都市

### ープランの目的・ここがポイント！

在住外国人や外国人観光客の多い京都。防災に関する基礎知識も少なく、言葉もわからない外国人は災害時には弱者です。「やさしい日本語」有志の会は、ひとりでも多くの外国人に災害時に助かってもらうため、ボランティア日本語教室で防災教育に取り組むために集まった有志の会である。

### ープランの概要

- ・「防災教育の取り組み」：日本語教室で「防災教育」に取り組んでもらうために必要となる教案の作成、イラストなどのツールの開発や防災グッズの貸出、日本語教師向けの防災知識の勉強会の実施。
- ・「やさしい日本語」ワークショップ：災害時、外国人により正確な情報を伝えるために開発された「やさしい日本語」のワークショップの実施。災害時に外国人の置かれる状況や日常のコミュニケーションのあり方などをワークショップ形式でわかりやすく教える。

### ー期待される効果・ここがおすすめ！

- ・ボランティア日本語教室で防災教育の取り組みが広がる！
- ・防災教育によって災害時により多くの外国人の命が助かる！
- ・大学生や地域住民向けワークショップにより、災害時に外国人が陥る状況や「やさしい日本語」への理解が深まり、災害時はもとより、日常のコミュニケーションの向上が期待できる！  
ひいては、地域住民の「住みよい街作り」意識変革の広がりや協働につながる！
- ・行政職員向けワークショップによって、災害時の外国人対応策や情報提供方法の改善が期待できる！

### ー成果として得たこと

- ・京都にほんごRings（京都府下の日本語支援ボランティア団体のネットワーク）にイラスト集を配布することで、多くの教室で積極的な防災授業の取り組みが見られた。教室により、外国人の日本語能力やレッスン方法も異なるため、有志の会で作成したツールや資料を生かして、それぞれが工夫し、学習者の知識だけでなく、教師の防災知識の向上に貢献できた。
- ・行政職員に「やさしい日本語」のワークショップを行うことにより、英語等の外国語だけでなく、「やさしい日本語」で情報提供することの利便性を理解してもらえた。このことは日常の情報提供の改善につながるに違いない。
- ・京都にほんごRingsや（財）京都府国際センターと組み防災教育の啓発活動を進め、府内の最北舞鶴から最南精華町まで、広い範囲で防災の取り組みを行えたほか、日本語教室以外の多くの関心を集めることができた。

### ー全体の反省・感想・課題

教える側の日本人が防災に関する知識が少ないことがわかった。教えるためには私たち自身がより深い関心と知識を得ることが必要だと感じた。また、本年はボランティア日本語教室を対象に取り組みを行ったが、災害時には地域住民を始め、行政や様々な団体との連携が必要であることに気づいた。



### ー今後の継続予定

今後も日本語教室での防災教育の啓発を継続するとともに、防災関連団体や国際交流団体、行政などとの情報交換や連携を深めて、災害に強い京都を目指したい。また、ホームページを充実させて、成果物や役立つ情報をより多く掲載して、他府県へも啓発活動を広げていきたいと考えている。



## ⑥ 愛知県立半田商業高等学校

**プラン名** レスキューハイスクール。育み隊！

**プランの対象** 小学生～高校生

**所在地** 愛知県半田市

### ープランの目的・ここがポイント！

1. 本校生徒の防災教育
2. 防災教育による地域貢献
3. 全国の高校生の防災意識の啓発

### ープランの概要

1. 地震と台風に関する『デジタル紙芝居』の製作を通じ、本校生徒の防災に関する意識を高める。
2. 市内の小中学校での『出前授業』により、小中学生の防災に関する意識を高める。
3. 各関係機関等が主催する県内の防災に関する行事に参加し、防災教育の推進役となる。

### ー期待される効果・ここがおすすめ！

1. 本校生徒が製作した『デジタル紙芝居』を活用して、本校生徒が講師になり地元小中学校に出向いて『出前授業』を実施することは、他の高校にはない「新たなチャレンジ」である。
2. 『出前授業』は単なる出発点であり、「チャレンジプラン」を活用して高校生による防災教育を情報発信することで防災教育普及が無限に広がる可能性がある。

### ー成果として得たこと

1. 『デジタル紙芝居』の製作を通じ、本校生徒の防災に関する意識が高まった。
2. 市内の小中学校での『出前授業』により、小中学生の防災に関する意識が高まった。
3. 各関係機関等が主催する県内の防災に関する行事に積極的に参加し、防災教育の推進役となった。

### ー全体の反省・感想・課題

1. 『出前授業』は充実した実践内容とすることができた。来年度は本年度以上に小中学生が主体的に参加できるような講義内容に改善したい。
2. 来年度新たに『防災グッズ』の企画・製作・販売に取り組む。そのために市内の工業高校や農業高校との連携を図る。



### ー今後の継続予定

1. 来年度も市内の小中学校で『出前授業』を実践し、地域貢献を果たす。
2. 『防災グッズ』の企画・製作・販売により、高校生による防災教育を推進させる。
3. マスコミを媒体として、全国の小中高校生の防災意識を啓発する。

## ⑦ 佐用高校農業科学科防災プロジェクトチーム

プラン名

佐用町は大きな家族！ ～ 豪雨災害を乗り越えて ～

プランの対象

学生・生徒・児童  
地域住民

所在地

兵庫県佐用町

### ープランの目的・ここがポイント！

「一昨年の8月9日に甚大な豪雨災害にみまわれた我が町を勇気づけたい。」  
過疎化、高齢化が進む佐用町を地元の高校生の力によって復興の手伝いができないかと考え、農業を学ぶ私たちは立ち上がりました。農業を題材として学んでいる学科だからこそできる防災活動を提案し、学校間や地域住民の方々と地域に根ざした取り組みを実践したプランです。

### ープランの概要

- ① 手作りプランターの製作、配布（6月佐用商店街、8月久崎商店街に各50個配布）  
※植え付けた草花はすべて私たちの手で栽培したもので、久崎商店街に配布した50個は舞子高校生、神戸学院大学生と協同で製作しました。
  - ② 手作り紙芝居の製作、上演（6月佐用小学校、11月上旬小学校の6年生約110人を対象）
  - ③ 被災者からの聞き取り、アンケートの実施（12月）  
災害直後の避難状況や生活実態、現在の様子などを聞き取りまとめました。
- ＜災害直後の活動として＞  
人的支援ボランティア（一週間で約500名の生徒が参加）  
義援金活動（姫路駅前：2日間で約100万円）、仮設住宅へのお見舞い（学校の農作物提供）

### ー期待される効果・ここがおすすめ！

佐用町や被災者に元気を届けられる。  
防災意識の向上とこれからの水害対策への課題を見ることができる。

### ー成果として得たこと

- ① 佐用町民や被災者に元気を届けられた。  
ささいな事でも高校生が頑張っている姿は、被災者や町民全体の励みとなり多くの方々から感謝のお言葉をいただいた。私たちの活動に涙される場面もあり反響は大きかった。
- ② 地域との一体感が生まれ、生徒の自尊心が芽生えた。  
地域住民との距離がこれまで以上に近くなった。野球部は昨年の全国高校野球兵庫県予選会では地元からの大応援団を背に創部以来初となるベスト16に進出するなど水害を通じて地域との結びつきが強固なものとなり、生徒達に自尊心が芽生えた。
- ③ 紙芝居を上演する中で、自然災害の恐ろしさなどを伝えることができ、防災意識の向上につながった。
- ④ 新聞紙上やホームページなどを通じて佐用町や佐用高校の取り組みを多くの方に知っていただくことができた。

### ー全体の反省・感想・課題

すべて生徒による自主的な活動であり、教師主体の活動でない事が私たちの最も誇れる所である。3年生は自分の進路の事などで悩みながらもここまで本当によく頑張ってくれた。来年度も、こうした活動を引き継ぐべく後輩達の頑張りを期待したい。

### ー今後の継続予定

今後もプランター配布をはじめ佐用町に元気を与える活動を実施していく。  
「農業と防災」の接点を見つめながら新たな活動も取り入れていきたい。





## ⑧ 社会福祉法人温真会 中士幌児童ステーション

プラン名

安心安全地域防災イキ・イキプラン

プランの対象

児童・生徒  
地域住民

所在地

北海道士幌町

### ープランの目的・ここがポイント！

地域の各事業部門(児童施設・学校)で、バラバラに実施されている防災プログラムを持ち寄り、すり合わせ、地域の実情を考慮し、地域住民や諸団体(公民館・婦人会・老人クラブ etc)と連携をとり、より効果的な地域防災プログラムの開発を目指す。

### ープランの概要

児童総合施設(子育て支援センター・保育園・児童センター)における各年齢に即した防災プログラムの実践の中から、施設の枠内では、防災教育は完結しないという認識の基、地域防災と言う視点に立って、地域の全住民を対象とした防災教育プログラムの開発を目指し、地域横断的な「地域防災委員会」の設立を目指した。

### ー期待される効果・ここがおすすめ！

地域防災委員会を立ち上げた根底には、北海道東部は約20年周期でマグニチュード8クラスの大震災に襲われることです。先の地震から8年が経過しました。その間の地域の変貌は、少子高齢化人口減社会そのものです。現在の実情から地域防災を見つめ直し、地域としての効果的な自衛防災プランを立て、実行する。

### ー成果として得たこと

- ・ 児童総合施設の枠を越え、地域を網羅する地域防災の視点に立てた。
- ・ 地域住民、行政、関係諸団体と協働連携して地域防災委員会設置の目標に到達した。
- ・ 防災委員会設立準備会の活動を通して、地域住民の防災意識が大きく変化し、防災教育の下地ができた。
- ・ 当児童施設の防災も地域防災とリンクして新たな大きな視点から防災教育を考えられるようになった。

### ー全体の反省・感想・課題

- ・ 足元の地域が少子高齢化人口減に立ち入った現状を踏まえ、地域としての防災を地域住民と協議した中で、今更ながら地域全体をふかんする防災の視点が欠けていたことを痛感させられた。
- ・ 小地域の防災委員会ですが、防災プランを立てる中で、災害時に於ける地域資源の有効活用など、今まで考えてもみなかったことを考えさせられ、その事が地域住民の防災意識の向上に繋がっていきました。
- ・ 何事も取り組むことの大切さを教えられました。

### ー今後の継続予定

- ・ 地域の防災は端緒についたばかりで、これからの活動の方が大切だと認識しています。今後も活動を継続発展させていきます。



## ⑨ 中学生防災隊プロジェクトチーム

**プラン名** 故郷は僕たちの手で～中学生による地域防災力向上の取り組み

**プランの対象** 市内在住の中学生

**所在地** 愛知県安城市

### ープランの目的・ここがポイント！

これまで「大人を対象とした地域防災活動」を「中学生にひろげる」ことを目的としたプランで、中学生が今までなじみのなかった「防災」をどれだけ自分ごととして活動するかがポイントです。

### ープランの概要

- ① 中学生に、自分たちが住んでいる地域で過去に起きた三河地震など、歴史災害を理解し防災マインドを養う。
- ② 「中学生防災隊」を結成する。
- ③ 中学生防災隊が活躍するための防災体験講座を開く。
- ④ 「地域防災訓練プログラム」を作る。
- ⑤ 地域の自主防災会の一員として、防災訓練など防災イベントで啓発活動を行う。

### ー期待される効果・ここがおすすめ！

- ① 中学生にとっては、自分の命と家族の命は自分で守る知識と術を身につけることができる。
- ② 地域は、中学生防災隊が地域で活動することで、地域住民の防災への関心が高まり、大きな地域防災力となることが期待できる。

### ー成果として得たこと

- ① 大人との付き合いが難しいと言われる中学生が、防災に関心を持ち、地域の防災訓練や防災イベントで活躍するためのプログラムを作成し、次年度以降の活動につなげることができた。
- ② 地域の自主防災会が、難しい世代の中学生を受け入れる環境作りに取り組んだ結果、防災訓練会場では、中学生防災隊が伸びやかに啓発活動が出来た。地域防災の要である自主防災会が自信を持って、地域の中学生防災隊を育てるのだという意識を持てるようになった。このことは地域での健全な青少年育成にもつながる。
- ③ この活動を通して、行政（防災危機管理課）・中学校・地区公民館・地区社会福祉協議会・消防署・地域の各種団体と連携することができた。このつながりを今後に活かせる。大きな収穫。

### ー全体の反省・感想・課題

- ① 反省点：最初に防災隊隊員の応募者が少なく、再募集に手間取り、計画を一部変更することとなった。次回からは、隊員募集の方法を再考し行う。
- ② 当初は、中学生の心をつかむことが出来ず苦労したが、顔の見える関係を築くことで、期待以上の活躍をしてくれる。信頼関係を築くことの大切さが分かった。中学生は凄いパワーと能力を持っている！



台車ぶるるで地震に強い家を説明

### ー今後の継続予定

- ① 今回実施した3町内会自主防災会をモデルに、近隣の6つの自主防災会で中学生防災隊の育成事業に取り組む計画を進めている。明祥中学区4町内会・安城西中学区1町内会・安城南中学区1町内会
- ② 24年度以降は、徐々に拡大し、将来的には、安城市内全域の自主防災会に中学生防災隊が入ることを目指す。



## ⑩ 特定非営利活動法人ディー・コレクティブ

**プラン名** たすけあい防災カレッジ in 宮城・山形～小学生のための福祉防災教育

**プランの対象** 小学校高学年、大学生、社会人、一般

**所在地** 山形県天童市

### ープランの目的・ここがポイント！

発災確実視の宮城県沖地震。宮城・山形では、地域の核家族化・高齢化により、人と人とのつながりの希薄化が進み、災害時要援護者対策の推進にあたり大きな課題となっています。一方、その当事者ともされる子ども達にとって、「災害時には自分たちは守られるだけではなく、助け合える・支え合える力を持っているという潜在性に気付き、自信を持つ機会が必要」と考えました。

この事業を通し、大人達も関わりながら、「自助・災害への備え」「共助のあり方」「要援護者対策」等について気付き、実践へつなげる場作りとしても位置づけていきます。宮城・山形の社会福祉協議会・行政・NPO・企業との連携を通して、より実践的な内容・ネットワーク形成に結び付けていきます。

### ープランの概要

小学校高学年を主な対象とした「たすけあい防災カレッジ」を開催。災害時要援護者について・災害時の助け合いの大切さ・宮城県沖地震への備えの大切さを、クイズ・ゲーム・体験学習を通して楽しく・わかりやすく伝えていきます。

会場では、身近に当事者がいる可能性の高い、障がい者・高齢者・アレルギー・ペットの4つのブースを用意。ブースをまわりながらクイズブック「たすけあいのしおり」を解いていきます。

### ー期待される効果・ここがおすすめ！

1. 子どもを通して、大人に対しても 「災害時要援護者」の存在とその課題・対応法の周知を行う
2. 共助の精神（思いやり・助け合い）・福祉的視点からの心の育成、防災への理解促進
3. 宮城県沖地震に備えて、県境を越えたつながり・支え合いが必要であることの周知
4. 次世代の防災リーダー育成の一環（スタッフの一員である大学生、参加者である小学生含む）

### ー成果として得たこと

- 宮城・山形間の、県境・業種を越えたネットワーク形成
- 山形の子どもたちへの「宮城県沖地震」の周知
- 福祉防災教育のプログラム構築・両県関連団体への提起
- コミュニケーションの大切さの再確認
- 当事者やその支援者が声をあげる・地域に関わることの大切さ

### ー全体の反省・感想・課題

【福祉のまちづくり＝災害にも強いまちづくり】

たすけあい防災カレッジの開催を通して、災害時は平常時の課題が表面化すること・普段の生活で困りごとを抱えている方は、災害時の避難や避難生活において、より深刻な問題を抱えること・普段問題なく生活している方でも、災害により生活が一変し、問題を抱えてしまう可能性について考えました。

平常時から福祉のまちづくりを進めることが、災害時要援護者だけでなく、より多くの方の生活を救うことにつながります。福祉のまちづくりには、普段からの人と人とのつながりや、助け合いの心が大切です。このことを参加者に伝えるだけでなく、私たちスタッフも今回の取り組みを通して、より深く考え・実感することができました。



### ー今後の継続予定

- 今回作成した福祉防災教育プログラムの応用・発展・継続
- つながりの強化：講師陣・関連団体との、より具体的なネットワーク形成（新たに他団体とつなぐ、互いに交流を深める、など）
- 宮城県内での開催

⑪ 愛知県立日進高等学校

プラン名

高校生による洪水ハザードジオラマ作成と天白川源流地域の防災力向上

プランの対象

実施者-高校生  
交流相手-地域住民

所在地

愛知県日進市

★☆☆  
一プランの目的・ここがポイント！

愛知県は今年度、東海豪雨（H12、9/11～12にかけて、愛知県を中心に東海地方の広範囲にわたって大きな被害をもたらした豪雨災害）から10年目を迎えた。東海豪雨以降も、スーパー台風の襲来、あるいはゲリラ豪雨が各地で発生している。そのため、地震のみならず水害に対する取り組みも重要と考え、今年度は地震に加えて、水害に関する防災教育に取り組むこととした。本校は、しばしば氾濫する天白川の源流地域であることから、源流地域の特性を生かした取り組みを実践した。

一プランの概要

生徒が約3ヶ月かけて、授業で日進市の洪水ハザードジオラマ（2.2m×1.05m）を作成した。それを活用し、8月には地域住民を学校に招いて、洪水ハザードワークショップを開催した。また、11月には、市民まつりでジオラマ展示を行い、市民に地域の洪水情報を提供した。天白川源流地域の特性をいかした、川のクリーンウォーキングを地域住民や市役所職員等と行った。年明けには、洪水募金活動や普段はベンチだが災害時にはトイレになる「雪隠便置（せっちんべんち）」の制作等に取り組んでいる。

一期待される効果・ここがおすすめ！

これまで取り組んできた地震防災教育に加え、洪水防災の知識やスキルを、高校生が学ぶことにより、地域社会との連携を一層深め、未知の災害に備える効果が期待される。また、高校生が地域の信頼を得ることにより、自己肯定感や達成感を体得し、防災以外の取り組みも積極的に行うようになることも期待される。

一成果として得たこと

洪水ハザードジオラマ作成では、地域の地形や浸水想定地区、危険箇所等を学ぶことができた。また、洪水ハザードワークショップでは、地域住民と共にDIG（地図上避難訓練）やパソコンによるバーチャル地震体験などを行うことにより、一層の災害への危機意識や地域住民との連帯感が生まれた。川のクリーンウォーキングでは、洪水予防の学びに加え、川を守るボランティア団体との交流を深めることができた。今回、洪水ハザードに取り組むにあたり、土のうの妖精「洪水ミハルちゃん」という、防災教育ゆるキャラを制作した。ミハルちゃんは、校内のみならず、地域にも積極的に出かけていき人気者となった。

一全体の反省・感想・課題

今回は、洪水防災の取り組みであったが、過去5年間地震防災に取り組んできたため、各方面から地震防災の取り組みへの期待の声を数多くいただき、途中で地震防災も取り入れたりした。

今後は大変だが、地震・洪水の両方に取り組んでいければと考えている。そのためには、防災教育に対する、校内組織の構築や資金の確保等が課題となるであろう。

一今後の継続予定

6年間の防災教育の取り組みにより、地域からの本校に対する防災への期待は大きいと自負している。そのため今後は、防災教育を学校の中心的取り組みとなるよう、校内組織のより一層の連携の強化や生徒委員会の充実等、学校ぐるみの防災教育を考えている。また本校は、防災を怖い・不安なものから、楽しみながら行うもの、「防災楽習」という姿勢で取り組んできたため、これからも新たなアイデアや工夫を凝らした防災教育を心がけていきたいと考えている。





## ⑫ 岡山一宮高校防災チャレンジ

**プラン名** 防災に関する GIS を活用した課題研究指導と学習指導案の提案・普及

**プランの対象** 高校生、保護者、PTA **所在地** 岡山県岡山市

### ープランの目的・ここがポイント！

高校生が、緊急地震速報、水害、火山災害、避難所立地、竜巻突風について GIS を活用した課題研究に取り組み、ポスター発表を行いました。また、課題研究の成果を踏まえて、新学習指導要領に向けた、災害・防災に関する学習指導案を日本全体と身近な地域である岡山市の2つのスケールで作成し、提案します。

### ープランの概要

日本は変動帯に位置し、地震や火山による災害が多く見られたり、近年豪雨災害もよく報告されています。地震のように起きる時期や場所がある程度想定できるものもあれば、火山のように噴火予知が難しいものもあります。また、地域によって備える災害の対象も変わってきます。このプランでは、高校の教科「地理」の立場から、高校生5グループに GIS を活用した防災に関する課題研究を指導しています。また、新しく高校の「地理A」では、「自然環境と防災」という項目が加わりました。そこで、課題研究の成果から地域性を踏まえた学習指導案を作成しました。

### ー期待される効果・ここがおすすめ！

GISの活用により、大量のデータを地図化でき、考察や空間認識が深まることが期待できます。また、課題研究を通して、課題を設定し、論理的・客観的に地理的事象を考え、災害や防災に主体的に取り組む力を培うことができます。

### ー成果として得たこと

生徒が取り組んだ課題研究では、次のような成果がありました。豪雨について消防庁のデータから、日本における豪雨災害のデータベースを作成し、GISを用いて地図を作成することができました。また、火山の分布地域と人口との関係で、人的災害の大きい地域の析出ができました。身近な地域の避難所の分布から、避難所までの距離の長い地域を見出し、実態調査を行いました。このようなことをポスター形式にまとめて発表させました。

中間報告会で、GIS を活用した地図作成を紹介しました。そのことで、他団体から、防災に関する地図作成を依頼されました。作成した地図が、お役に立てたら嬉しいです。また、2010年9月に国土交通省国土計画局主催のG空間 EXPO「初等中等教育でのGIS活用セミナー」で実践内容を含めて事例発表しました。

### ー全体の反省・感想・課題

生徒が行った課題研究の発表の場を探しています。また、学校内で課題研究の時間確保に困っています。

### ー今後の継続予定

課題研究の成果を、コンテスト等に応募し、発表・普及します。また、作成した防災に関する地理学習指導案の授業実践を行い、災害や防災に関する見方考え方を身に付け、主体的に行動できる生徒を育てます。



作成した災害・防災ポスターを校内で常設展示しています。

⑬ 釜石市立釜石東中学校

プラン名 EAST-レスキュー

プランの対象 生徒（児童）、地域、保護者

所在地 岩手県釜石市

★☆☆  
一プランの目的・ここがポイント！

中学校地震常襲地域（根浜海岸近く）津波が来ても、避難して死者0をめざす！！

- 1 自分の命を自分で守る・・・避難することの大切さ 避難してよかったね
- 2 助けられる人から助ける人へ・・・災害弱者への支援  
（小学校と隣接、高校再編で地域から撤退、高齢化、中学生が地域の起爆剤）
- 3 防災文化の継承（学んだことを文化祭で発表）避難することの大切さを保護者や地域に発信

一プランの概要

- 第1弾・・・小中合同避難訓練（災害弱者への支援）
- 第2弾・・・宮城岩手内陸地震を知る（自衛隊による）
- 第3弾・・・地域に「安否札1000枚配布大作戦！！」（3年計画・・・2年目）
- 第4弾・・・防災ボランティアスト（全校生徒10コースに分かれ水難救助や救急方法など学ぶ）
- 第5弾・・・目指せ！EASTレスキュー隊員1級！！（地域の一員として活動できる生徒の育成）

一期待される効果・ここがおすすめ！

目指せ！EASTレスキュー隊員1級！！は、2年目になります。地域にボランティアに出かける生徒が多くなり、地域でも中学生に期待するようになりました。顔見知りになり活動することで地域も防災組織を作り災害に負けない街づくりを目指し、元気になりつつあります。

一成果として得たこと

- 1 平成21年度に作成したDVD「てんでんこレンジャー」が幼・保・小学校で好評。ポリスチャンネルにも掲載して、全国に発信できている。
- 2 「目指せ！EASTレスキュー隊員1級！！」2年目に入る。生徒は、与えられる5～3級ではなく、自分から進んでボランティア活動をしようと活動し始めた。地域の活動に中学生が出ていくことにより、地域の活動も活発になり、地域全体が元気になっていくと感じる。地域の方々も、「この活動はEASTレスキュー隊員のポイントだよ」と、声をかけてくださるようになった。
- 3 平成21年度に考案し、平成22年度から始めた「安否札1000枚配布大作戦！！」は地域の方に好評で、3年計画で全戸配布を目指す。
- 4 小学生との合同避難訓練も年度初めの行事として定着し、災害弱者への支援の意識付けになっている。
- 5 平成22年度宮古工業高校と連携して行った「津波模型を使った」津波のメカニズムを知る機会として大変役に立った。また、地域に発信することの大切さも理解できた。
- 6 「防災ボランティアスト」も地域の協力のもと、多彩なコースで開催できている。

一全体の反省・感想・課題

暗中模索の中で取り組んできた防災教育だが、地域の協力・行政・他団体の支援を得て活動できている。3年目で本校なりの取り組みの基本形を構築した。平成22年度「ぼうさい甲子園」2年連続「優秀賞」受賞。今後も、継続して取り組んでいくことを重点に全職員スクラムを組んで頑張ろうと思っている。



一今後の継続予定

「安否札1000枚配布」3年連続で、中学校区すべての世帯に配り終えること。平成23年度2回目。



## ⑭ 千葉県立市川西高等学校

プラン名

2つの川に囲まれた我が高校  
～地域と共に防ごう・助けよう・考えよう～

プランの対象

生徒、職員、保護者、  
地域住民

所在地

千葉県市川市

### ープランの目的・ここがポイント！

学校の教育活動における防災教育に「春木川と国分川に関連する課題」を系統的・組織的に取り入れ、生徒が学んだことを地域に積極的に情報発信し、周辺地域をリードしながら、地域と連携した取り組みを行ったこと。

### ープランの概要

コーディネーターによる講演会（9月、12、1月）全校生徒、教職員、地域住民対象に、水害への講演会を実施する。

高校生防災パワーアップ講座参加（7月）。地域フォーラムの開催（8月）水害における防災についての啓発運動、地域へ水害に対する防災についての発信を行う。

市川市総合防災訓練（防災ひろば）への参加（8月）。九都県市合同防災訓練（千葉県会場）参加（9月）。文化祭を活用した防災（水害）啓発運動（9月）。防災環境学習会（年3回実施）。

### ー期待される効果・ここがおすすめ！

水害における防災教育効果と共に、河川を活用した体験の中から環境を保護する意識醸成のためにも非常に有効な手段である。さらに、将来、水資源の重要性や環境の保護や維持する意識の醸成により、環境をよりよく理解する人材育成に有効である。水害の視点から情報を学校から発信して、学校と地域住民とが情報の共有化を確立することで、学校と地域の間に強いネットワークを構築できる。

### ー成果として得たこと

水害における防災教育効果と共に、河川を活用した体験の中から地域の水環境を理解させることは、環境を保護する意識醸成のためにも非常に有効な手段である。さらに、この体験学習等を通して、将来、水資源の重要性や環境の保護や維持する意識の醸成により、環境をよりよく理解する人材育成に有効である。

### ー全体の反省・感想・課題

災害や大地震や台風などの自然現象は、人間の力では食い止めることはできないが、災害による被害は我々の意識により減らすことが可能である。災害発生時に自己の安全を確保し、高校生として周囲のために何ができるかを考えることで、ボランティア活動への理解と社会の一員としての意識を育てることができる。



### ー今後の継続予定

河川における水害の防災教育を学校教育活動の場所として取り組むことは、教育基本法改正の下、郷土を愛し保護する心を育成する活動はこれからの教育活動にとり、有効であり先進性と独創性をもっている。本校の教育の柱であるESD（持続発展教育）で防災教育もそのひとつであり、学校の中で継続していく予定である。

⑮ 千葉県立千葉西高等学校

プラン名

埋立から40年～みんなで取り組む「磯辺」の防災～

プランの対象

本校生徒、職員、保護者、地域（磯辺地区）住民及び一般

所在地

千葉県千葉市美浜区

★☆☆  
一プランの目的・ここがポイント！

「命を守ろう」をキーワードにして、「地域との連携を深める防災教育」のあり方を検討する。

- ① 学校が中心となり、地域との連携を図りながら、この地域の災害特性について学ぶことを通して、地域を知る活動を進め、ネットワークを活かした防災体制の整備を目指す。（地域を知る）
- ② 防災に関する正しい知識や高い意識を身につけ、自助・共助の意識のもとに的確に行動できる人材を育成する。（防災について学ぶ）

一プランの概要

- ① 地域の災害特性の研究・広報 → ボーリング調査、液化化実験装置作成、地域行事への参加
- ② 防災に関する意識啓発 → 意識調査・防災関連行事・防災体験等の実施、防災通信の発行
- ③ 防災担当者連絡会議の実施 → 関係機関、地域住民、学校のネットワークづくり

一期待される効果・ここがおすすめ！

- ① 埋立地に造成されて40年経過し、少子高齢化している街において、学校が積極的に地域への情報発信を行い、学校を核として防災を学ぶ機会を提供し、地域と連携した取組を行うことで、災害に強い街づくりに役立てる。
- ② 意識調査で意識づけを行い、さまざまな防災に関する意識啓発事業を通して知識を身につけ意識を高め、自助・共助の心を育てることで、「命」や「人と人のつながり」の大切さを理解し、命を守ることのできる人間育成を図る。

一成果として得たこと

- ① 防災関連行事等を通じて学校、地域、関係機関とのネットワークが構築された。
- ② 地域の実態を調査し、結果を地域にフィードバックすることができた。
- ③ 学校が地域に対して学びの場所を提供した。
- ④ 生徒は、地域行事に参加して防災に関する体験を積むことで、コミュニケーション能力を高め貴重な社会体験ができた。
- ⑤ 命の大切さ、自助・共助の考え方、備えの重要性などの理解が深まり、防災に対する意識の変容がみられた。
- ⑥ 防災関連行事、防災通信等を通じて、防災に関する知識を身につけ、実際に新たな心がけや行動を行うなど変化がみられた。

一全体の反省・感想・課題

- ① 各クラスの防災係は、防災についての勉強会や防災体験等を積み重ね、公開LHRではクラスの中心となって授業を行った。教えることで防災に関する理解が深まったようである。
- ② 全日制高校普通科において防災教育をどのように展開することが可能か、ゼロからのスタートであったが、さまざまな実践を行うことができた。また、防災担当者連絡会議で事業について検討しアドバイスをいただき、計画時よりもより発展的な内容となった。
- ③ 地域の代表者会議で、回覧用防災通信を配付し本校の防災教育の取り組みを広報してきたが、より効果的な広報のあり方や地域連携の範囲など、検討課題が残る。



一今後の継続予定

第2回意識調査の結果、防災に対する関心が高まり新たに備えを行うなど、防災意識の向上がみられた。今後、新しい防災情報や知識を継続的に発信することでさらに効果が上がると期待される。また、防災を通じて構築された関係機関や地域住民とのネットワークを継続し、連携を深めていきたい。



## ⑯ 西の地防災きずな会

**プラン名** みなみ版 防災動画教材制作プロジェクト

**プランの対象** 児童、生徒、  
地域住民

**所在地** 徳島県美波町

### ープランの目的・ここがポイント！

昭和南海地震の発生から64年が経ち、その体験談が聞かれなくなってきた。今、その体験談を映像等に残しておかなければ、いずれは全く聞くことができなくなる時が必ず来る。そこで、我々は地元の大学と連携して、昭和南海地震の体験談を中心とした地域独自の防災動画教材(DVD2枚組)を制作し、地元の小中学校をはじめ自主防災組織、県立防災センター等に配布し、教訓という名のタスキを次世代につなぎ、次の南海地震に向けて防災力の向上を図る。

### ープランの概要

- ・昭和南海地震体験談の聞き取り調査を行う。
- ・対談形式で体験談の撮影を行う(徳島文理大学メディアデザイン学科と連携)。
- ・次の南海地震の被害想定等に関する動画を制作する(徳島大学環境防災研究センターと連携)。
- ・地元の児童・生徒、ならびに地域住民を対象に試写会を開催する。
- ・試写会の感想等を踏まえて効果を検証し、完成品を量産して地元の小中学校等に無料配布する。

### ー期待される効果・ここがおすすめ！

- ・体験談から災害に対する教訓を学ぶことができる。
- ・動画として残すことにより、体験談や教訓を後世に伝えていくことができる。
- ・地元の大学と連携することにより、より高度な成果品を制作することができる。

### ー成果として得たこと

- ・徳島文理大学ならびに徳島大学と連携して、地域独自の防災動画教材を制作することができた。
- ・この防災動画教材の試写会では参加者に対し、地震・津波の恐ろしさや防災対策の重要性を再認識させることができた。
- ・体験談の取材協力者に対し、火災警報器の無料設置を行うことで、さらに地域の防災力向上に寄与することができた。

昭和南海地震体験談の聞き取り調査は、過去に大学等をはじめさまざまな機関で実施されているが、改めて実施すると、まだまだ知られていない事実がたくさんあり、この活動の重要性を再認識することができた。過去の体験者の教訓を過去のものとして、次世代に残し、つないでいくことは防災対策の第一歩であると言える。

### ー全体の反省・感想・課題

当初、我々だけで撮影が実施できるかどうか不安であったが、徳島文理大学の協力によって進めることができた。この活動がテレビで取り上げられ、町内外の昭和南海地震の体験者から手紙や電話等を頂き、改めてこの活動の重要性を知った。

しかし、撮影は想像していたよりも技術を必要とし、当初の計画以上に徳島文理大学に頼らざるを得なかった。そのため、撮影できた体験談が7人とどまった。今後は我々だけでも撮影から編集までを行えるよう、スキルアップする必要がある。

### ー今後の継続予定

今年度は7人の撮影しかできなかったが、地域にはまだまだ体験者が存在しており、その教訓を残しておく必要がある。そのため、来年度も継続して活動していく予定である。



⑰ 宮城県丸森町立丸森東中学校

プラン名 丸東中・改援隊 地域防災対策活動プラン

プランの対象 中学生、地域住民、  
教職員、保護者

所在地 宮城県丸森町

一プランの目的・ここがポイント！

本活動では、中学生ができる地域防災の活動内容を、防災訓練や防災マップ作成等の実践を通じて検討し、その成果を本中学校区の地域住民と共有して、地域の防災対策や災害時の活動内容の拡充を図る事を目的としています。その際、本校は避難所の指定を受けており、中学校区の防災拠点として地域と連携・協力を図る必要があります。そのため地域住民による学校支援組織を設立し、多種多様な防災教育活動。実践等の可能性を追究しています。

一プランの概要

- ①地域住民による学校支援組織「丸東・改援隊」と、学校と地域が一体となった地域防災訓練の実施
- ②防災の専門家による講演会等の実施、並びに生徒による地域防災訓練の成果発表会の実施
- ③昨年度作成した地域防災マップや避難所運営マニュアル等の見直し
- ④地域防災マップや避難所運営マニュアル、学習の成果等をまとめた冊子の作成
- ⑤まとめの冊子を町内の小・中学校や、地域の行政機関に配布

一期待される効果・ここがおすすめ！

- ①学校及び地域の防災意識の向上
- ②防災教育による中学生の地域貢献力・所属感の向上
- ③山間地域で学校が核となる防災対策プランの構築
- ④学校と地域社会の信頼関係の深まり

一成果として得たこと

- ①中学生と地域住民の、地域防災訓練の必要性・重要性の認識
- ②中学生の活動に対する地域住民の感謝と期待、学校と地域の信頼関係の深まり
- ③中学生の、活動に対する達成感や満足感の獲得、自分たちが地域の役に立つ存在であるとの実感
- ④山間地域において学校が核となった防災対策プランの構築

一全体の反省・感想・課題

- ・前年度の成果と課題を生かし、地域の実態・実情に即した効果的・効率的な防災教育と防災訓練を実施できた。
- ・丸森町総務課、丸森町社会福祉協議会等、各機関には昨年以上の協力をいただき、充実した防災教育が実践できた。
- ・地域防災訓練への地域住民の積極的参加が少なかった。
- ・次年度以降、学校独自の特色ある活動計画の見直しが必要である。



一今後の継続予定

ユネスコ・スクールの加盟校として、教科・領域の学習内容から、防災に関わるものを洗い出し、教科・領域の年間指導計画に「防災教育」の位置づけを図るとともに、教科・領域間の系統性を明らかにする。その上で、意図的・計画的な防災教育の実践に努める予定である。



## 防災教育チャレンジプランに期待する

世界中で災害が頻発しています。ハイチやチリでの地震・津波、パキスタンやオーストラリアの水害で大きな被害が出ています。地球温暖化の影響と考えられる猛暑や寒波、台風の巨大化・頻発化も懸念されています。日本もたくさんの災害におそわれると予想されています。21世紀前半には首都直下地震や東海・東南海・南海地震のような広域にわたる巨大な地震災害の発生が危惧されています。こうした災害に立ち向かう主役は1980年以降に生まれた若い人たちです。若い人たちが、自分自身を守り、お互いに助け合っている力を育てておくことが、この国の将来にとって不可欠です。これは学校だけの仕事ではなく、学校・地域・家庭が協力してさまざまな試みを重ねていくことが大切です。

若い人たちの防災に関わる能力の向上を図るための素晴らしいプランをたくさん集め、それらを多くの人々に紹介するために、「防災教育チャレンジプラン」の取組みを続けることにしました。8回目を迎える今年もプラン募集をさせていただいたところ、合計32団体の応募をいただきました。どれも素晴らしい内容でしたが、予算の制約があり、今回はその中から17のプランを選ばせていただきました。防災教育の内容をできるだけ多様にできるプラン、いろいろな場所でできるだけ幅広い層が関われるプランへと成長してほしい「たね」を重点的に選ばせていただきました。選ばれた各団体はいろいろな面で「チャレンジ」し、今後の防災教育を推進する上での共通の資産を増やすために努力をしてください。

今年から新しい試みとして、防災教育チャレンジプラン実行委員会がぜひプランを作りたいと考えているテーマをご紹介しますことにしました。最初に選んだのは「ゲリラ豪雨」対策です。ゲリラ豪雨とは1時間に50mmを超える激しい雨が数時間局所的に降るために発生する災害です。現在の防災体制では、いつどこで起きるか予測する難しいため、一人ひとりが災害から身を守る力を備えることが必要なのです。

今回選ばれた皆さんのプランは今日をスタートとして、1年間の実践を経て大きな実を結び、来年2月のワークショップに成長した姿で戻ってきてくださることを期待してやみません。

防災教育チャレンジプラン実行委員長  
京都大学防災研究所巨大災害研究センター センター長・教授

林 春 男

近年、中央防災会議では、東海地震、東南海・南海地震、日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震、首都直下地震について、対策のマスタープランとなる地震対策大綱をとりまとめていますが、いずれの大綱においても、自助及び共助を中心とする“地域防災力の向上”は、重要な課題とされています。また、平成18年4月に中央防災会議で決定された「災害被害を軽減する国民運動の推進に関する基本方針」においても、国民一人一人の防災意識や地域コミュニティの防災力を高め、具体的な減災のための行動を社会全体で実践する“国民運動”を展開することが謳われています。

子供達に対し、学校や地域を中心に“防災教育”を行うことは、子供達だけにとどまらず、その取組に密接に関わる父兄、先生及び近隣住民の方々の防災意識を高め、地域全体の防災力の向上に大きく貢献することが期待されます。

「防災教育チャレンジプラン」の取組は、皆様のご支持を得て、8年目となりました。特に今回の特別枠テーマは「地域の特色を活かした防災力の向上」であり、北海道から九州まで全国津々浦々の地域性を活かした取組に期待しております。今回選ばれた17の団体の皆様には、大いにご活躍いただき、この取組のさらなる発展に貢献していただくことをご期待申し上げます。

防災教育チャレンジプラン実行委員会委員  
内閣府参事官（地震・火山・大規模水害対策担当）

越 智 繁 雄

## 【1】 高津養護学校 たかつ地域ネットワーク推進会議

プラン名

2011 たかつ 地域との協働による  
障害者・高齢者等要援護者支援のための防災シミュレーション訓練

応募部門

小学校低学年の部  
～ 大学・一般の部

所在地

神奈川県川崎市高津区

### 一目的・特徴等

障害がある児童生徒の避難所設営等防災訓練を通し、防災意識を涵養するとともに地域活動により社会参加への機会を提供する。また、学校と地域との協働による防災訓練をとおして、地域防災のあり方を探る訓練内容を実施する。さらに、災害時要援護者と地域住民との交流の機会とし、障害の理解推進を図り、地域コミュニティ活性化の一助としたい。  
この訓練の特徴として、障害児や高齢者・外国の方等要援護者が参加する実際的な訓練であることがあげられる。

### 一団体紹介

本会議は学校と地域住民・障害者団体・行政・ボランティア団体等からなる横断的な組織で、障害者の地域生活安定のため、また、安全・安心な生活を守るため、障害者の余暇活動支援や学校施設の開放、公開講座の開催、人材の育成、地域ネットワークづくりなどを目的に平成19年設立されました。とくに、地域町会・自治会と連携・協働した「ぼうさいシミュレーション訓練（避難所設営訓練）」は過去4回開催し、約150名の参加者を得て、地域から期待される事業となっています。



## 【2】 千葉県立東金特別支援学校

プラン名

防災発信・防災交流～北之幸谷から二市四町へ～

応募部門

小学校低学年の部  
～ 大学・一般の部

所在地

千葉県東金市

### 一目的・特徴等

地域の自治会や老人会等と特別支援学校との夜間を含めた防災訓練を行うことで、地域と一体となって防災に対する意識を高める。防災安全マップの作成等の防災交流を通して、防災について得た情報を学区である二市四町（東金市、山武市、大網白里町、九十九里町、横芝光町、芝山町）に発信し共有していく。また、日々の授業を通して、障害のある児童生徒に対する防災教育のポイントを探ったり、障害に応じた防災用具の開発に取り組んだりする。

### 一団体紹介

本校は九十九里平野にあり、所在地である東金市は、古くから農水産物の集散地として栄え、温暖な気候風土に恵まれたところである。知的障害を中心に、自閉症、肢体不自由、聴覚障害など、他の障害を併せ持つ児童生徒の多様な教育的ニーズに応じた教育を行っており、児童生徒数158名、平成24年度に40周年を迎える。また、知的障害特別支援学校では県内唯一の寄宿舎設置校である。より地域とのつながりを深めるために、平成23年度は、家庭・地域・学校のパートナーシップにより、地域と一体となった防災力の向上を目指して防災教育に取り組む。





### 【3】 釜石市立釜石東中学校

プラン名 「EASTーレスキュー」

応募部門 中学校の部

所在地 岩手県釜石市



#### 一目的・特徴等

「つなみてんでんこ」自分の命を自分で守ったうえで、「助けられる人から助ける人へ」を合言葉に防災について学び・活動します。主な活動①「目指せ！安否札全戸配布！」3年計画で釜石東中学校区の全世帯に「安否札」（災害時避難したことを知らせる札）を配布し、2011年度2年目です。②防災ボランティアストは、全校生徒10コースに分かれ、救助の仕方や防災・減災について学びます。③本校独自の検定制度（5級から1級）で生徒の自主性を伸ばします。

#### 一団体紹介

本校は、リアス式で有名な南三陸海岸（根浜）のすぐそばに建っています。全校生徒217名は、生徒会活動・部活動に取り組んでいます。特に、合唱は、本校の伝統です。

防災教育に取り組んで4年目を迎え、小中合同の避難訓練や防災ボランティア活動も充実させ、顔見知りになり困った時に助け合える関係作りや、地域と交流する中学生の活動をさらに広げていきたいと考えています。



### 【4】 高塚台2丁目自治会

プラン名 学校を巻き込んだ、防災・防犯を一体化した地域の安全・安心向上作戦

応募部門 大学・一般の部

所在地 奈良県河合町



#### 一目的・特徴等

これまで培ってきた地域のマンパワーと学校との連携をさらに発展させ、「魅力的なイベント」として河合町役場が行ってきた防災イベントのノウハウを吸収・進化させ、防災+防犯を中心とした「楽しく・人の集まりやすい」イベントを開催する。訓練や寸劇、家具転倒防止講習会などを通じて防災が日常となる地域づくりを目指す。

#### 一団体紹介

一人の熱意による児童登下校の見守り活動から始まった地域の防犯パトロール。そこから学校とのつながりが強化され、登下校時の地震避難訓練や学校内の支援ボランティア活動へと発展してきた。平成21年度に結成した自主防災会では防火・防災訓練はもとより夏休みに親子消火栓探しスタンプラリーや夏祭りに合わせた防災クイズなど、大人も子どもも参加しやすい形態を模索している。



## 【5】 宮城県大河原町立金ヶ瀬中学校

**プラン名** 学校と地域が協働する防災対策活動プラン

**応募部門** 中学校の部  
大学・一般の部

**所在地** 宮城県大河原町



### 一目的・特徴等

本プランでは、学校と地域が協働して防災教育とその実践を構築することをめざす。このため、本校は地域有識者の住民からなる学校支援組織を設立し、その支援を受けて中学生が主動(中心になり活動)する地域防災訓練などを実施する。このような実践を通じて、中学生と地域の防災意識を高め、自助と共助の在り方を共有することで地域防災力の向上を図る。また、その波及効果として、学校・生徒・住民間のつながり・関わりの絆づくりや持続可能な地域社会づくりに貢献できる可能性が期待できる。

### 一団体紹介

本校がある大河原町は、JR東北本線と県を縦断する主要国道が通り、県南部の地理的中心に位置し、国や県の出先機関がある人口23,400人の町である。本校はこの町の中心部から離れた地域にある小規模校であり、生徒数100程度の各学年ークラスの中学校である。学区には約3,300人が在住し、大規模店舗が建ち並ぶ国道沿いと農耕地からなり、農業については徐々に農家の減少と高齢化が懸念される状況にある。そこで、本校では平成22年にユネスコ・スクールに加盟して持続発展教育を推進し、防災教育を核とする教育実践により、持続可能な地域社会づくりや未来の担い手育成に取り組んでいる。で理解してもらおう活動を行います。



平成22年11月に実施した地域防災訓練の様子

## 【6】 愛知県立半田商業高等学校

**プラン名** レスキューハイスクール。育み隊！

**応募部門** 高等学校の部

**所在地** 愛知県半田市白山町



### 一目的・特徴等

本校生徒が三河地震や伊勢湾台風等の被災者からの聴き取り調査を通じて製作した防災教材「防災を語り継ぐ電子紙芝居」を活用し、近隣の小中学校に「出前授業」を実施する。市内の専門高校と連携を図り、防災グッズの企画・製作・販売に取り組む。

防災に関する知識の習得だけでなく、現在の若者に必要であるコミュニケーション能力の育成、学校教育で重要視されている道徳心の育成を図る。また、マスコミを通じ、全国の高校生に対する防災教育の啓発活動を行う。

### 一団体紹介

本校は平成16年度より「専門高校等による日本版デュアルシステムの推進校」として文部科学省より委嘱を受け、全国の高校に先駆けて、若年者のための新しい職業訓練制度である「半田版デュアルシステム」を開発した。その活動内容は、独創的な人材育成プログラムだけにとどまらず地元観光資源のPR活動にも及ぶ。その功績が認められ、半田市観光協会からは「半田観光大使」に任命されている。昨年度、新たに防災教材の製作に着手し、本年度は「出前授業」を市内の小中学校7校で実施した。来年度は市内の専門高校と連携を図り、多彩な地域貢献活動を実践していく。





## 【7】 糸魚川市立根知小学校

**プラン名** 根知小発！ジオパークの大自然と向き合う地域防災教育

**応募部門** 小学校の部

**所在地** 新潟県糸魚川市

### 一目的・特徴等

糸魚川市が世界に誇るジオパーク。ジオパーク特有の自然災害やそこで営まれてきた産業、文化について、理解を深めることは重要である。地域住民と共に、地域の未来を考え、「自分の命は自分で守る」という意識が高まるよう、これまでの教育活動を防災の視点から再構成する。防災とジオパーク、地域の3つを関連付けた総合的な学習の時間の実践事例、地域防災における学校、地域の連携に向けた取組事例として提案する。

### 一団体紹介

根知小学校は、根知谷（谷間の地）の中央付近に位置し、全校生徒35名のへき地・複式学校です。学区には、日本百名山の一つである雨飾山や糸魚川ー静岡構造線が露呈するフォッサマグナパークなどのジオサイトがあり、風光明媚で自然豊かな地域です。また、国指定の重要文化財である山寺の延年（おててこ舞）や十二社祭礼相撲など、伝統的な文化が多く残る地域でもあります。しかし、谷間の地という特性から、昔から地滑りや土砂災害、熊の目撃情報が多く、生活をしていく上で地域防災が重要となる地域です。



## 【8】 南三陸町立歌津中学校

**プラン名** 南三陸の防災を担う歌津中生 ～結いっこの精神を生かして～

**応募部門** 中学校の部

**所在地** 宮城県南三陸町

### 一目的・特徴等

宮城県沖地震が高い確率で発生すると予想されている当地域においては、地域住民ひとりひとりが防災意識を高め、防災、減災に向けた活動を担うことが求められています。そのような活動の担い手となる中学生を育てることを目的としています。具体的な活動としては、地震や津波の避難訓練や安否確認訓練、防災マップの作成や生徒個々の防災計画の立案実習、避難所への宿泊体験、被災情報収集実習などの活動を行います。

### 一団体紹介

本校は、三陸海岸沿いに位置しています。50年前のチリ地震津波など、多くの地震や津波の被害に見舞われてきました。本校の生徒たちの中には、祖父母が被災したという生徒も多くいます。阿部友昭校長先生もそのひとりです。阿部校長先生は、朝会や行事等のお話の中で、命の大切さや災害の恐ろしさについて、ユーモアを交えて熱く語ってこられました。本校の生徒たちは、皆明るく元気で、部活動に一生懸命に取り組む生徒たちです。防災について積極的に考え、行動し、地域防災を担う人材となれるよう一生懸命活動します。



## 【9】 千葉県立姉崎高等学校

プラン名

今年は防災で連携！  
京葉工業地帯の地震災害に学校・地域の連携で立ち向かう

応募部門

高等学校の部

所在地

千葉県市原市

### 一目的・特徴等

本校の西側へ約3km先には京葉工業地帯があり、大手企業の工場が建ちならぶという立地条件から工業地帯特有の大規模災害発生時の避難場所となることが想定される。そうした際に備え、学校・地域住民及び地元企業が合同防災訓練や研修会等を行うことにより、学校と地域の間に強いネットワークの構築を目指す。

また、県内の大学が有する危機管理についての専門性を活用し、千葉県教育センターとの連携のもと、本校において研究成果を検証し、防災教育の推進を図る。

### 一団体紹介

本校は、昭和53年に開校し、めざましい発展を遂げた、地域社会に文武両面において大いに貢献した。現在、職員が地域の公民館で防災教育について講演を行い、日常から地域と連携する取り組みを行っている。防災を含め学校と地域の間で双方向の情報交換ができる状況になり、本校は地域社会の核となりつつある。また、近隣には、青葉台小学校、姉崎中学校、姉崎東中学校があり、本校生徒が講師となり、小学生、中学生に対して防災授業を行うことで、地域と関係学校が一体となった防災教育の拠点を目指している。



## 【10】 北海道滝川高等学校コンピュータ同好会

プラン名

豪雪地帯の危険回避に向けた GIS の活用

応募部門

高等学校の部  
大学・一般の部

所在地

北海道滝川市

### 一目的・特徴等

- 目的
- 1, 生徒が生活者の視点で地域を見ることができるようになる
  - 2, 行政とコラボレートし、協働でまちづくりを考える
  - 3, ケータイとGISを使ったシステムを構築する

- 特徴
- 1, 高校生がまちづくりに積極的に関わる点
  - 2, 身近なケータイを使ったものでケータイとGPS機能搭載であれば誰にでもできる
  - 3, GPS・GISを使ったシステムづくりである

### 一団体紹介

本校は北海道空知支庁管内の進学校である。地理においては、GISの活用を通して多面的な地理の授業を展開している。2年生後期では「冬の通学路状況調査」をテーマに豪雪地帯である滝川市の除排雪状況を調査し、その解決方法を考えている。GISを積極的に活用するためコンピュータ同好会を立ち上げ、調査して集めた情報から地図を製作している。展示会やフォーラムを開催したり、主題図をもとにポスター制作に挑戦し米国で開催されたESRIユーザ会のマップギャラリーにも参加している。





## 【11】 「やさしい日本語」有志の会

プラン名 「やさしい日本語」から防災教育へ

応募部門 大学・一般の部

所在地 京都府京都市

### 一目的・特徴等

在住外国人や外国人観光客の多い京都。災害時には「言葉の壁」「制度の壁」「心の壁」がよりいっそう高くなります。「やさしい日本語」有志の会では、京都のボランティア日本語教室で防災授業に取り組んでもらうことで「言葉の壁」を、他団体の方々との連携で行政に働きかけて「制度の壁」を、そしてワークショップを通して、より多くの方々に「やさしい日本語」を知っていただき、「心の壁」を低くする活動を今年も積極的に進めていきます。

### 一団体紹介

防災に関する基礎知識も少なく、言葉もわからない外国人は災害時には弱者となります。そんな外国人にボランティア日本語教室だからこそ防災教育に取り組むべきと、日本語教師の有志が集まってできたのが「やさしい日本語」有志の会です。

私たちは外国人向けの防災教育ツールの開発や勉強会を行うほか、日本人向けにもワークショップを開催し、災害時に外国人が陥る状況や、外国人に優しい日本語とはどのようなものかをわかりやすく伝える活動を行っています。今年は地域や行政とも連携、協力して防災教育を推進していきたいと考えています。



## 【12】 みえ防災コーディネーター・三泗ブロック

プラン名 ぼうさい・どなべ 「炊き出し君」

応募部門 小学校低学年の部  
小学校高学年の部  
大学・一般の部

所在地 三重県四日市市

### 一目的・特徴等

災害発生、避難所へ、電気・ガス・水道断絶状況下で、食の確保ぐらい避難者の自主的活動と取り組みで確保するための、全員参加型・体験訓練を実践する事業提案ですが、将来を担う世代の育成と親の参加による「次世代育成」さらに、これら体験を地域活動にとりこみ、主体的に立ち上がる地域防災力の向上と防災コミュニティの力を構築するための目的と特徴を持ち合わせたプランです。

### 一団体紹介

三重県防災対策事業として、平成16年度より三重県内の様々な場所で減災と地域防災力の向上を図るためにコーディネーターとして養成された者のうち、三泗地区（四日市市及び周辺町）を生活圏としているメンバーの賛同者で自主的に組織構成し、県・市・町の支援と要請を受けて、県のテーマ「みえの防災風土づくり」のために自主的に応援活動するために組織された団体です。地域防災力向上へのさまざまな活動のなかから、今回のプランは考えだされたもので、全国発信させていただいた。



体験学習・父兄と共に  
(小4年生)



オリジナル防災土なべ(炊き方案内焼付け)



## 【13】 新潟県立柏崎工業高等学校

**プラン名** 俺たち柏工防災エンジニア

**応募部門** 高等学校の部

**所在地** 新潟県柏崎市

### 一目的・特徴等

被災地となった体験を生かし、防災マインドやボランティア精神の育成を目指して、学校教育と地域活動が一体となった地域社会に貢献できるリーダーの人材育成を目的とする。防災活動を実践している学校・団体は多く存在するが、カリキュラムに直接、取り入れている学校は少ない。防災教育に必要な学習活動や課外活動などを実践しながら、防災教育が本校の特長ある学校づくりとなることを全国に発信したい。

### 一団体紹介

平成21年4月新潟県立柏崎工業高等学校に防災エンジニアコースが新設された。中越沖地震の被災地として学校周辺は大きな被害に合い、校舎は避難所や救助自衛隊の基地として使われることとなった。更に本校は世界最大の柏崎刈羽原子力発電所からわずかしか離れていない。

新潟県は中越地震、中越沖地震と大震災が短期間で発生し、防災問題への関心が急激に高まっていた。そこで、防災問及び原子力防災を学ぶため、柏崎工業の電気科に新たなコースとして防災教育を推進する基点となった。



## 【14】 東京都立田無工業高等学校

**プラン名** 新たな地域防災の担い手、生徒全員が防災ボランティア！

**応募部門** 高等学校の部

**所在地** 東京都西東京市

### 一目的・特徴等

【目的】「西東京消防署及び地域防災ネットワークと連携し、防災ボランティアの育成・防災ネットワークづくりに協力する。」

【特徴】①工業高校の特性を活かして、西東京消防署の協力により、災害時に必要な技術講習会を実施。救助器具取扱い訓練では、チェーンソーや削岩機、油圧ジャッキを使った救助訓練を行う。②消防活動訓練、初期消火訓練では、本校に設置される予定の動力可搬ポンプによる放水訓練を地域防災ボランティア、近隣住民とともにを行う。

### 一団体紹介

本校は、東京都の西部（多摩地区）西東京市にある都立の工業高校です。機械科、建築科、都市工学科の3学科があり、都市工学科は単独の学科としては東京都では唯一本校に設置されています。

本校では「奉仕」の授業の一環として、平成18年からこうした「防災ボランティア活動」を取り入れ、生徒全員が消防署の認定する「防災ボランティア」の資格を持っています。

工業高校として、学校全体で資格取得を奨励しており、これまでに全国初の高校生「とび技能検定2級」合格者を出し、全国初の女子合格者も出しています。他にも学科の特徴を生かした様々な資格や検定にチャレンジし多くの合格者を出しています。





## 【15】 茅ヶ崎トラストチーム

プラン名 茅ヶ崎まるかじりプロジェクト『The サバイバル2011』

応募部門 保育園・幼稚園  
～ 大学・一般の部

所在地 神奈川県茅ヶ崎市

### 一目的・特徴等

休業中に校庭で遊んでいる時の地震を想定したイベント「The サバイバル2011」を実施し、緊急時の不安や恐怖を軽減するとともに、防災に対する意識の高まりを促す。また、毎月行うイベントに防災要素を盛り込み、遊びの中で楽しみながら、協力すること、助け合うこと、分け合うこと、そして茅ヶ崎を大切に思う経験を積み重ねる。さらに共通の問題をかかえる、子どもたちの活動を行う諸団体と緩やかな連携をとり、地域の防災力を高める。

### 一団体紹介

茅ヶ崎トラストチームは、持続可能な社会を次世代につなぐ仕組み作りをめざし、①遊び空間「浜っ子パーク」②食を通して人が笑顔でつながる「eco・cafe・Smile」③茅ヶ崎の資源を活かす「茅ヶ崎まるかじりプロジェクト」を企画・運営をしています。

子育てを通してつながった私たちは生活の中で感じる疑問、不便、危機感をより良い社会にするためのチャンスと捉えて、議論し、「私たちにできること」で、ゆるりと、なが〜く、たのしみながら、自然・人・社会をつなぎ、未来をつむいでいきます。



## 【16】 秋田県大館市立第二中学校

プラン名 あんげんで やさしさ めぐる 「アヤマの里」の防災教育

応募部門 中学校の部

所在地 秋田県大館市

### 一目的・特徴等

中学生としてできる地域での防災活動や防災訓練などに積極的に参加する意識と、保護者、地域と協力した活動により、地域の防災意識を高め、「自らの生命は自らが守る」という自動と「自分たちの地域は自分たちで守る」という共助の考え方を軸に危機管理・防災教育を推進する。また、通学路を中心とした地域における地震発生時の危険箇所につき、その対策などについて自分たちで作成した「地域防災マップ」を活用して、具体的な行動化に結びつく力を身につける。

### 一団体紹介

全校生徒156名は素直で明るく純朴であり、すべての生徒が同じ小学校から入学してくることもあり、気心が知れ仲も良い。地域は鉱山が閉山となるなどして活気が薄れ、少子・高齢化が進み一人暮らしの老人宅も少なくない。生徒会が中心となってボランティアの日を設けて訪問したり、学校祭へ招待するなどして交流を進めており、夏の図書整備や秋の「なべっこ」には数名の方々が学校に向かい活動に協力してくれた。近くには天然記念物の芝谷地湿原がありアヤマの群生地トンボが飛び交い、小動物が往来し、時にはカモシカが出ることもある。



## 【17】 八女市上陽防火委員会

**プラン名** 八女市上陽防火委員会総合訓練

**応募部門** 保育園・幼稚園の部  
小学校高学年の部  
大学・一般の部

**所在地** 福岡県八女市



### 一目的・特徴等

今年度、少年消防クラブが消防庁からの「モデル少年消防クラブ」の選定を受け、救急法訓練用資器材、強カライト、布担架等の購入を行いました。それに伴い、少年消防クラブを対象とした取扱訓練を計画していましたが、今回の「防災教育チャレンジプラン」を知り、少年消防クラブに限らず婦人防火クラブ、幼年消防クラブを一体とした総合訓練を実施し、各クラブの連携、世代間の交流を深めることを目的に応募したものです。

### 一団体紹介

八女市上陽防火委員会は、昭和59年に組織され、幼年消防クラブ、少年消防クラブ、婦人防火クラブの育成強化、運営指導等に当たっています。各クラブは年間を通し様々な活動（救急教室、防火教室、避難訓練、町歩き防災マップ作成、消防出初式参加、その他各種研修等）を行い、地域住民の防火防災思想の高揚と普及を図り、自主防災体制の確立推進に向かって積極的に活動しています。



## MEMO



# 会場利用案内

## ■ 会場座席

- ・「会場図」に従い、所定のエリアにご着席ください。

## ■ 施設利用にあたっての注意

- ・喫煙は、指定の場所以外は《 禁煙 》です。
- ・携帯電話は、電源オフまたはマナーモードに設定し、会場内での通話をご遠慮ください。
- ・ゴミは、各自の責任ですべてお持ち帰りください。
- ・立入禁止ロープが設置されている箇所、未使用の部屋には入らないでください。
- ・施設常設の機器等については、お手を触れないでください。

## ■ 施設見学について

- ・以下の施設を昼休み、休憩時間に各自で見学可能となります。
  - ①そなエリア 1F 災害体験ゾーン（所要時間約 30 分）  
ニンテンドーDS から出題されるクイズを解きながら首都直下地震の発災から避難までの一連の流れを体験できる「東京直下 72h ツアー」
  - ②そなエリア 2F 防災学習ゾーン（所要時間約 30 分）  
首都直下地震をわかりやすく紹介するミニシアター、PC による防災クイズ、防災学習映像のライブラリー、世界の防災用品や防災ゲームの展示体験コーナー。映像ホールではアニメ「東京マグニチュード 8.0～東京直下 72h～」(約 20 分) を上映

## ■ 発表・講演等の記録について

- ・ワークショップの記録のため、事務局側にて、音声の録音、ビデオ撮影、写真撮影を行います。また、これら資料をデータベース化し、防災教育チャレンジプラン関係する媒体（ホームページ、パンフレット、報告書等）または関係者に供しますので、ご了承ください。

## ■ ネームプレートについて

- ・受付でお受け取りになったネームプレートは、首からお提げください。
- ・昼食時等の外出の場合、入館時には必ずネームプレートをご提示ください。
- ・お帰り時は、受付常設のネームプレート回収ボックスに、ご投函ください。

《出演団体対象》

## ■ 展示物について

- ・展示物掲示～配置～撤去及び回収は、出演団体各位の責任で行ってください。
- ・施設の床、壁面、備品等を汚したり、傷をつけたりしないよう、ご注意ください。

## ■ 発表方法について

- ・事前にご提出のスライドデータに基づき、説明を行っていただきます。施設のセキュリティの都合上、当日のデータ差し替えは、一切できません。
- ・発表時間は事前にお知らせしたとおりです。時間の経過は、ベルでお知らせしますので、**時間厳守**でお願いします。
- ・各部の発表順が 2 番目以降の発表者は、ひとつ前の団体の説明が始まるのと同時に、各自で待機席まで移動していただき、ご着席ください。

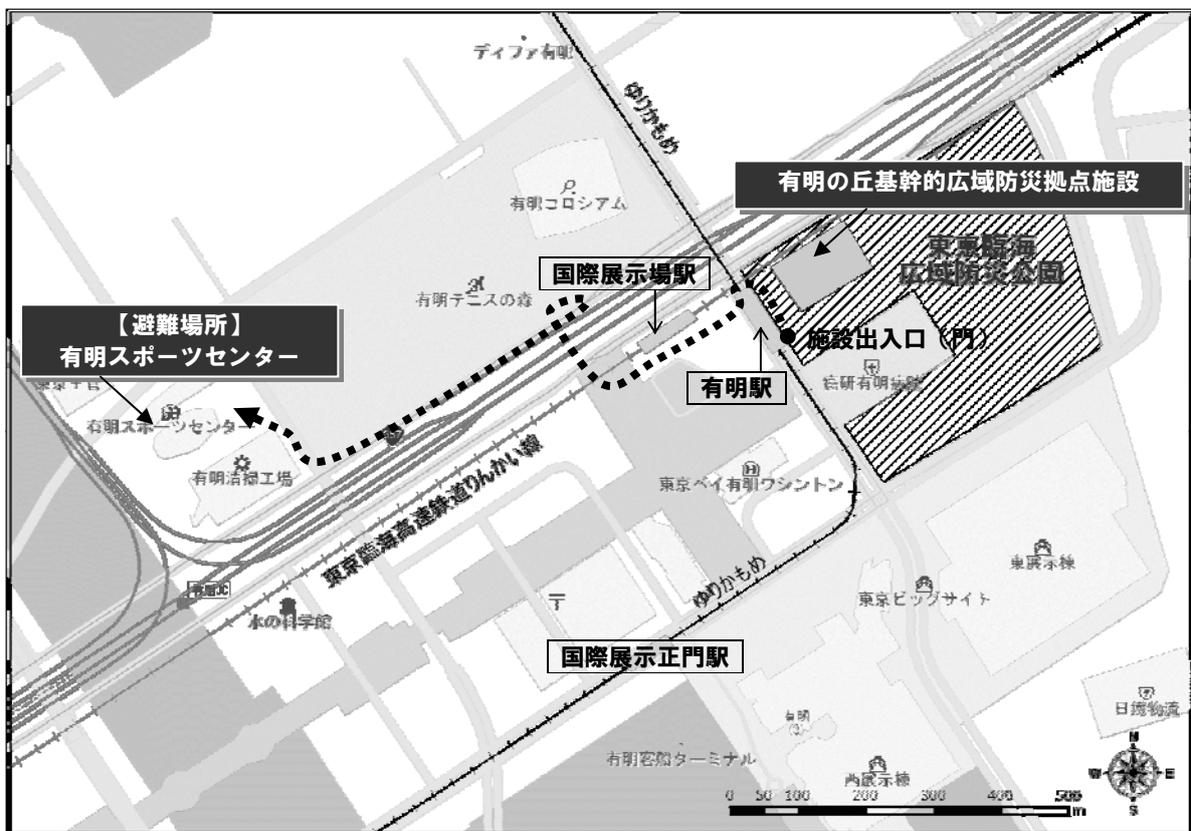


## 避難誘導の御案内

災害発生時には、当会場は政府の合同現地対策本部が設置される施設となります。  
首都圏を中心とする災害発生時、次のとおりをお願いします。

1. 待 機  
避難指示があるまで、施設内で待機してください。
2. 展示物等の撤収・避難指示  
内閣府より事務局へ避難指示が入ります。事務局の指示にしたがってください。
3. 避 難  
避難指示に基づいて、東京都江東区が指定する避難所(有明スポーツセンター)へ避難します。  
現地まで、事務局スタッフが誘導します。事務局の指示に従うようにしてください。

### ■ 避難誘导图



※ 避難場所へは、上図の矢印に沿って移動します。

## 2010年度 審査委員会

委員長	近藤 信司	独立行政法人国立科学博物館 館長
委員	安藤 雄太	東京ボランティア・市民活動センター アドバイザー
委員	重川 希志依	富士常葉大学大学院 環境防災研究科 教授
委員	清水 善久	東京ガス株式会社 導管ネットワーク本部 防災・供給部 部長兼供給指令室長
委員	庄子 憲義	東京海上日動リスクコンサルティング株式会社 常務取締役
委員	露木 昌仙	全国連合小学校長会 対策部長／台東区立台東育英小学校 校長
委員	戸田 芳雄	東京女子体育大学 教授／日本安全教育学会 理事長
委員	中島 康弘	東日本電信電話株式会社 ネットワーク事業推進本部 サービス運営部災害対策室長
委員	長谷川 彰一	内閣府大臣官房審議官(防災担当)
委員	林 春男	京都大学防災研究所 巨大災害研究センター センター長・教授
委員	藤吉 洋一郎	大妻女子大学 文学部 コミュニケーション文化学科 教授
委員	山口 博	東京電力株式会社 常務取締役・電力流通本部 副本部長
委員	米田 徹	新潟県 糸魚川市長／日本ジオパークネットワーク会長

(平成 23 年 2 月 26 日現在、50 音順、敬称略)

## 防災教育チャレンジプラン募集の御案内

防災教育チャレンジプランでは、全国で取り組まれつつある防災教育の場の拡大や質の向上に役立つ共通の資産をつくることを目的に、新しいチャレンジをサポートいたします。

そのプランの準備・実践に当たって発生する経費を支援し、実現に向けて防災教育チャレンジプランアドバイザーが出向くなどして相談などの支援を行います。

応募の中から選ばれたプランは、活動計画について前年度のワークショップ(最終報告会)で発表、さらに1年間実践した結果を、交流フォーラム(中間報告会)とワークショップ(最終報告会)で成果を発表していただきます。※計3回発表

ワークショップ(最終報告会)においては、優秀な実践活動に対して防災教育大賞、防災教育優秀賞、防災教育特別賞を授与いたします。また、皆さんのチャレンジプランの成果はホームページなどで広く公開いたします。

### 《サポートの内容》

■プランの実践にかかる実費の提供。上限 30 万円(査定による)

※活動・予算計画の提出を必要とします。

(従来からの取り組みを発展させた、新たなプランも支援します。)

■交流フォーラム(中間報告会)・ワークショップ(最終報告会)発表者への交通・宿泊費の支給。

(1名分×3回分)

■プランの実現に向けて、防災教育チャレンジプランアドバイザーがボランティアで支援を行います。

※アドバイザーが現地に訪問する経費は、事務局が支給。(回数制限有)

※継続的なアドバイスは、電子メール等でやり取り可能。

### 《表彰》

●最終報告書とワークショップ(最終報告会)での発表を踏まえた審査を行い、優秀な実践活動に対して、防災教育大賞・防災教育優秀賞・防災教育特別賞を決定し、表彰状を授与いたします。

●防災教育チャレンジプランサポーターとして認定いたします。

### 《サポート主体》

●防災教育チャレンジプラン実行委員 および 地域アドバイザー

●防災教育チャレンジプラン実行委員会事務局

●その他、実行委員・地域アドバイザー等が紹介する諸団体。

### 《応募資格》

●防災教育を一層充実させたいと考えている教育・社会福祉施設(保育施設・幼稚園・学校等)、教育委員会、NPO、地域団体(民間事業所、各種団体、行政機関)、個人等

●採用された場合は、実践団体決定会、中間報告会、最終報告会に出席できること。(都内にて開催)

### 《応募部門(プランの対象別)》

A. 保育園・幼稚園の部

B. 小学校低学年の部

C. 小学校高学年の部

D. 中学校の部

E. 高等学校の部

F. 大学・一般の部

### 《募集期間》

毎年 9 月頃～12 月頃に募集。詳細は、ホームページ上でお知らせいたします。





## 防災教育チャレンジプラン

- 防災教育チャレンジプラン実行委員会事務局  
E-mail : [cpinfo2865@bosai-study.net](mailto:cpinfo2865@bosai-study.net)
- 防災教育チャレンジプランホームページ  
<http://www.bosai-study.net/>

※E-mail アドレスは、予告なく変更することがあります。  
最新情報は、ホームページでご確認ください。